

「田んぼの学校」実施報告書

2013年度

野川で遊ぶまちづくりの会

目次

1. 企画書	1
2. 実施計画・報告書	2
3. 会計報告	3 3
4. おたより	3 5
5. 参加者名簿	7 2
6. 参加者感想文集	7 4
7. 総括報告	1 0 6
8. 付録	1 0 8

1. 企画書

「田んぼの学校」

企画名：いのちの湧き水をみつめよう！！

野川で遊ぶまちづくりの会

都会の谷戸と湧き水の小川

東京の区部に隣接する調布市には多摩川の支流である野川が流れています。野川は府中崖線の湧き水を集めて流れる都会では貴重な清流です。その野川に府中崖線の谷戸から湧き出る水を源流とする小川（一部コンクリートによる用水路）があり、昔から、谷戸から野川までの川沿いに田んぼがありました。今でも田んぼを続ける農家があり、谷戸には雑木林があり、ホタルも飛ぶ都会では信じられないような環境が残っています。しかしながら、田んぼも減りつつあり、雑木林も手入れがされず、このままでは、この貴重な環境がなくなってしまう。

田んぼで遊び、学ぼう

私たちの会では、会の名前にあるとおり、野川で遊びながら、野川を子供達が遊べる（泳げる）川にするために、まちづくりの提言をしていこうという趣旨で活動（1991年2月発足、ホームページ：<http://nogawa-tanbo.sakura.ne.jp/>）しています。

野川の支流である小川（通称佐須用水）の清掃と生き物観察会をしているとき、会員の一人が田んぼをやらないかとつぶやいた一言がこの地で田んぼをやるきっかけになりました。何事も実践（遊ぶこと）からという私たちの活動にはぴったりの課題でした。野川のいのちはこの湧き水です。この湧き水がまた多くのいのちを育てているということ、体感できる田んぼはまさしく「田んぼの学校」でした。幸い、近くの農家に友人がおり、援農という形で、田んぼを始めることができました。それから22年、会員を中心に田んぼをやってきて、自分達だけでなんとかできるという自信がつくところまで来ました。これまでの積み重ねから、本企画の重要性は増しており、その必要性を再確認し、継続することにしました。本年も、この地域を保全するため、またよりよくするため、市民の方々に広く知っていただくために親子（子供は小中学生）参加者を公募し、広く市民に理解していただくことを目的に企画しました。具体的な内容は日程表をご参照下さい。

2. 実施計画・報告書

プログラムマニュアル												
プログラム名称:		田んぼの学校										
実施予定日	4月7日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時						
実施日	4月7日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00						
作業:	◎「田んぼの学校」開校式◎説明会◎野草観察会											
課題:												
目的:	当会の活動を理解してもらい。また、今後の心構えなどを話し合う。田んぼの春を感じてもらい。											
内容:	参加者顔合わせ(自己紹介)、年間予定説明、名簿作成、質疑応答。											
要領:	●開会の挨拶●説明会(当会の概要、年間日程、援農)●質疑応答●参加確認(多数の場合、抽選)●参加費徴収●種蒔配布●閉会の挨拶											
準備:	●佐須ふれあいの家を借りる。											
用具:												
服装・装備:												
担当者:	講師:石森											
実施記録:	指導担当者名:尾辻											
	参加者名:											
	開始時刻 10:00		終了時刻 12:00									
	実施内容:											
												
							留意事項:					
備考:												

プログラムマニュアル												
プログラム名称:		田んぼの学校										
実施予定日	4月20日	土	開始時刻	10時	終了時刻	15時						
実施日	4月20日	土	開始時刻	10:00	終了時刻	15:00						
作業:	◎苗床作り											
課題:												
目的:	苗を育てる場所で、苗の生長に大きな影響がある。苗が順調に生長するための準備を十分に作る。種蒔きの2週間前に苗床を作るのは、雑草を取り除くためである。											
内容:	●苗を育てるための苗床を作る。											
要領:	●田んぼの南側に幅1.2m、長さ12mくらいの広さの短冊畝つくる。土の塊は種籾より小さくなるように、大きなものを手ですりつぶす。●高さは他と同じにする。高くすると、乾燥しやすくなるため。●畝の両脇は7cmくらいの深さで水路を作り水を入れる。											
準備:	●農協で100mのネットを購入する。●湿った土では土が固まりやすいので、乾燥した時でないとう苗床作りはできない。天候によっては日程を変更する。●ただし、代掻きした苗床に種を蒔く方法もある。(直播きに近い)											
用具:												
服装・装備:												
担当者:												
実施記録:	指導担当者名:											
	参加者名:											
	開始時刻				終了時刻							
	実施内容:											
												
							留意事項:					
備考:												

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月21日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	4月28日	日	開始時刻	14:00	終了時刻	15:00
作業:	◎種まき					
課題:	種籾の不思議にせまる					
目的:	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。					
内容:	●種籾を蒔く。					
要領:	●もち米と粳米の種籾を4, 6の割合で、区別(もち米に粳米が混ざるともちにならない)して蒔く。●種籾は重ならない程度に密に蒔く。●薄く(5mmほど)土をかける。●かまぼこ状にネットをかける。					
準備:						
用具:	ネット、ネットフレーム(20本)、ふるい					
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
実施内容:						
						
雨のため、この日に延期						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月28日	日	開始時刻	10時	終了時刻	13時
実施日	4月28日	日	開始時刻	11:00	終了時刻	14:00
作業:	◎用水路清掃 ◎生き物観察					
課題:	用水路には何がいます？					
目的:	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。					
内容:	●佐須街道から野川までの佐須用水(本流)のゴミ拾いをする●同じところで、水棲動物を捕獲して観察会を行う。					
要領:	●用水路に入り、ゴミ拾いをする。●ゴミは分別する。●空缶の中にはザリガニがいるので、捕獲する。●ゴミはリヤカーで集め、児童館裏に置かせてもらう。					
準備:	●クリーンセンター、佐須児童館に連絡をする。					
用具:	●ゴミ袋、リヤカー、軍手●水槽、水棲動物用捕獲網					
服装・装備:						
担当者:	講師:石川					
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻					終了時刻
実施内容:						
留意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	5月19日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	5月19日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
作業:	◎堆肥入れ ◎荒起こし					
課題:	堆肥の養分は何? 田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる?					
目的:	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。					
内容:	●堆肥を田んぼに均等に撒く●撒いた堆肥を耕運機で漉き込む●畦の草刈りをする。●刈った草は田んぼに撒く。●畦の際に水路を作り、水を引く。					
要領:	●水路に堰を作り、田んぼに水を引き入れる●畦の際に水路を作る●畦に泥を塗り付ける分を畦から削る					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
						
留意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	6月9日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	6月9日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	14:00
作業:	くろつけ					
課題:	くろつけは何のため?					
目的:	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くと言うことを学ぶ。					
内容:	●畦に泥を塗りつける。●					
要領:	●取水口から一番遠いところからくろつけをする●水加減をしながら泥をこねて、畦の上部と壁面に5cmくらいの厚さで泥を塗る●くろつけが終わったら畦際の水路に水を引き入れ、くろが乾かないようにする					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	10:00			終了時刻	14:00
	実施内容:					
						
留意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	6月9日	日	開始時刻	18時	終了時刻	20時
実施日	6月1日	土	開始時刻	18:00	終了時刻	20:00
作業:	ホテル鑑賞会					
課題:	ホテルはどこに棲む？					
目的:	ホテルの生育できる環境を理解する。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	18:00			終了時刻	20:00
	実施内容:					

	留意事項:					

備考:						

プログラムマニュアル													
プログラム名称:		田んぼの学校											
実施予定日	6月15日	土	開始時刻	10時	終了時刻	15時							
実施日	6月15日	土	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00							
作業:	◎苗取り ◎しろかき												
課題:	しろかきは何のため?												
目的:	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきは入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。												
内容:	●苗代から苗を取り、わらで適当な量を束ねる。●取った苗は水に浸けておく。●田んぼに水を十分に入れ、耕運機で代掻きをする。●表面を水平にならす。												
要領:	●結束用のわらは、あらかじめ水にぬらしておく●結わえた苗の束は籠に入れて水に浸けておく●もち米と粳米の苗を絶対に混ぜない。●代掻きが終わる頃、水を止めると高低がわかる												
準備:	●結束用のわら●籠を用意する												
用具:													
服装・装備:													
担当者:													
実施記録:	指導担当者名:												
	参加者名:												
	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00									
実施内容:													
													
							留意事項:						
備考:													

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	6月16日	日	開始時刻	10時	終了時刻	13時
実施日	6月16日	日	開始時刻	13:00	終了時刻	15:30
作業:	田植え					
課題:	丈夫に育て!					
目的:	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。					
内容:	●田植えをする ●南側にもち米を田んぼの四割くらい植える					
要領:	●30cm間隔に印のついた縄(25m)を張り、印のついたところに植える。●縄は25cm間隔ですらしていく。●苗を植える人は、植え終わったら一歩下がって自分の足跡をならす。●水は少な目に張る。					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	13:00	終了時刻	15:30		
	実施内容:					
						
留意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	7月7日	日	開始時刻	10時	終了時刻	13時
実施日	7月7日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	13時00分
作業:	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り					
課題:	田んぼに何がいます?					
目的:	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:	講師:石川					
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	10:00			終了時刻	12:00
	実施内容:					
						
注意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:						
実施予定日	8月22日	木	開始時刻	9時	終了時刻	12時
実施日	8月23日	金	開始時刻	9:00	終了時刻	12時00分
作業:	夏祭り準備					
課題:						
目的:						
内容:	●テント張り●ちょうちん付け●やぐら紅白テープ巻き●掲示板設置●当会は焼き鳥の模擬店として参加する。					
要領:						
準備:	●備長炭15Kg2箱●ビニールパック、ビニール袋、輪ゴム、アルミホイール●食材(串焼き鳥1日3000本、焼き鳥用タレ)●保温用ダンボールケース					
用具:						
服装・装備:						
担当者:	柏野夏祭り準備					
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	9:00			終了時刻	12:00
	実施内容:					
						
8月4日の田んぼの様子						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	8月23日	金	開始時刻	15時	終了時刻	21時
実施日	8月23日	金	開始時刻	13時00分	終了時刻	21時00分
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
課題:						
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。					
内容:	●2000本の焼き鳥を焼いて、1本100円で販売する。					
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。●タレは焼いた後1回だけ付ける●					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	13時00分			終了時刻	21時00分
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項:					
	----- ----- -----					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	8月24日	土	開始時刻	15時	終了時刻	21時
実施日	8月24日	土	開始時刻	13:00	終了時刻	21:00
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
課題:						
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。					
内容:	●2000本の焼き鳥を焼いて、1本100円で販売する。					
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。●タレは焼いた後1回だけ付ける●					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	13時00分			終了時刻	21時00分
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:						
実施予定日	8月25日	日	開始時刻	9時	終了時刻	12時
実施日	8月25日	日	開始時刻	9:00	終了時刻	12:00
作業:	夏祭り片付け					
課題:						
目的:						
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:	柏野夏祭り(片づけ)					
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	9:00			終了時刻	12:00
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	9月15日	日	開始時刻	11時	終了時刻	13時
実施日	9月22日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
作業:	カカシ作り					
課題:	カカシって何してるの？					
目的:	稲の穂に付いた糶をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	10:00			終了時刻	12:00
実施内容:						
						
留意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	10月12日	土	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	10月12日	土	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00
作業:	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り					
課題:						
目的:						
内容:	●ハザ掛けをつくる(南北2列)●稲刈りはもち米から先にする●うるちと混ざらないように注意する。					
要領:	●ハザ掛けの足場を先に刈る●足は垂木3本1組として三脚を作る●三脚3組で1列とし、2列作る●梁は2段にする。2段目は釣り下げにする●梁の竹は細ければ2本組にする					
準備:	●足になる垂木、3本1組、6組分●梁にする竹(10m)10本くらい●網掛け用竹棒(3m)15本くらい●鳥除け網40mくらい●荒縄(太)1巻●結束用稲わら					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00		
実施内容:						
						
留意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル												
プログラム名称:		田んぼの学校										
実施予定日	10月13日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時						
実施日	10月13日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	13時00分						
作業:	◎稲刈り ◎レンゲ種まき											
課題:	刈った稲を干すのはなぜ？											
目的:	稲を干すのはなぜなのか考える。											
内容:	鳥除けの網を張る。											
要領:												
準備:												
用具:												
服装・装備:												
担当者:												
実施記録:	指導担当者名:											
	参加者名:											
	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00								
	実施内容:											
												
							留意事項					
備考:												

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	10月27日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	11月3日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
作業:	脱穀					
課題:						
目的:						
内容:	●稲穂から種籾を取る					
要領:						
準備:	佐須地区の共同脱穀機(自走式)を借り、田んぼへ移動する。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	10:00			終了時刻	12:00
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	11月17日	日	開始時刻	10時	終了時刻	14時
実施日	11月17日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	14:00
作業:	精米					
課題:	玄米、胚芽米、精米の違いは何？					
目的:	一粒の米に託されたものを考える。					
内容:	●精米機で精米する。●粳米は7分くらいにする。					
要領:	●					
準備:	●粳摺り精米機 ●みの ●米袋10枚					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	10:00	終了時刻	14:00		
	実施内容:					

実施記録:	留意事項:					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	11月23日	土	開始時刻	10時	終了時刻	15時
実施日	11月23日	土	開始時刻	9:00	終了時刻	15:00
作業:	収穫祭(餅つき、豚汁)					
課題:	お米を作ったのは誰?					
目的:	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。					
内容:						
要領:						
準備:	●臼、杵、かまど、せいろ ●かまど2式、鍋2児童館より借りる					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	9:00	終了時刻	15:00		
実施内容:						
						
留意事項						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	12月8日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	中止	中止	開始時刻		終了時刻	
作業:	落ち葉拾い(堆肥作り)					
課題:	雑木林って何?					
目的:	雑木林の役割を考える。					
内容:	カニ山で落ち葉を集め、堆肥置き場に積む。その時、米糠と鶏糞を混ぜ、水を十分にかけ、シートをかぶせる。					
要領:						
準備:	米糠(自前の米糠が約20Kg、他に山田屋お米館で有機栽培米糠3袋(15Kg×3)を購入する。また、農協(神代支店)で鶏糞2袋(10Kg×2)を購入する。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	放射能汚染による東京都からの指導により落ち葉からの堆肥作成を取りやめた。					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項:					
	----- ----- ----- -----					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	9月16日	月	開始時刻	9時	終了時刻	16時
実施日	12月8日	日	開始時刻	9:00	終了時刻	16:00
作業:	親子炭焼きディキャンプ					
課題:						
目的:	炭焼きの実践を体験し、雑木林の役割を考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	9:00	終了時刻	16:00		
	実施内容:					
						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	12月8日	日	開始時刻	13時	終了時刻	15時
実施日	12月8日	日	開始時刻	13:00	終了時刻	14:00
作業:	しめ縄作り					
課題:	しめ縄の由来は？					
目的:	お米作りとしめ縄の関係は？					
内容:	しめ縄も稲藁の利用の一つです。					
要領:						
準備:	炭焼きキャンプと一緒にカニ山で実施					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	13:00			終了時刻	14:00
	実施内容:					
	炭焼きキャンプと一緒にカニ山で実施					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	1月11日	土	開始時刻	11時	終了時刻	13時
実施日	1月11日	土	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00
作業:	佐須地区どんど焼き					
課題:	どんど焼きってなに？					
目的:	地域に根づいている行事に関心を持ち、生活との関わりを学ぶ。					
内容:	佐須地区どんど焼きにて餅つきを手伝う					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00		
実施内容:						
注意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	2月9日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	中止	中止	開始時刻		終了時刻	
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。 					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	放射能汚染による東京都からの指導により落ち葉からの堆肥作成を取りやめた。					
					
留意事項:					
					
					
					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	2月9日	日	開始時刻	13時	終了時刻	15時
実施日	3月9日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
作業:	縄織い、草鞋づくり					
課題:	昔の人は稲藁でさまざまな生活に必要なものを作ってきました。そのひとつが縄です。今年から草鞋作りも行います。					
目的:	稲藁を使って縄を織うことを通して先人の知恵を学ぶ。					
内容:	稲藁を使った縄織い。					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00		
	実施内容:					
						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	3月9日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	中止		開始時刻		終了時刻	
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。 					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	放射能汚染による東京都からの指導により落ち葉からの堆肥作成を取りやめた。					

留意事項:						

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	3月9日	日	開始時刻	12時	終了時刻	15時
実施日	3月9日		開始時刻	13:00	終了時刻	16:00
作業:	「田んぼの学校」卒業式(反省会)					
課題:	米つくりを終えて					
目的:	この1年で考えたこと、学んだことを確認する。					
内容:	●軽食を取りながら行う。●●					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
実施内容:						
						
留意事項:						
備考:						

3. 会計報告

2013年度収支決算

	科目	コード	金額	備考
収入の部				
	受講料	1110	253,500	
	事業収入	1120	155,534	柏野夏祭り模擬店収益等
	会費	1210	12,000	
	寄付	1310	0	
	預かり金	1320	24,000	米代他
	立替入金	1330	0	
	前期繰越金	2100	29,747	
収入の部合計			474,781	
支出の部				
事務支出	事務通信費	2010	10,000	インターネットサーバ他
	事務消耗品費	2020	4,211	
	事務印刷費	2030	0	
事業支出	消耗品費	2110	32,055	
	通信費	2120	0	
	材料費	2130	52,955	種など
	交際費	2140	9,511	
	会議費	2150	18,496	
	教材費	2160	0	
	講師料	2170	220,000	
	保険料	2180	0	
	燃料費	2190	6,963	
	印刷費	2200	0	
	修理費	2210	4,500	
	講師補助費	2171	65,750	
	光熱水費	2220	10,000	
	賃貸料	2230	0	ふれあいの家
その他支出	預かり金支出	2310	24,000	米代
	立替金	2320	0	
	手数料	2330	0	
	参加会費	2340	2,500	
	燃料費	2190	6,963	
支出の部合計			460,941	
収支差額			13,840	

4. おたより



みなさん、お元気ですか。いよいよ「田んぼの学校」が始まりました。この「おたより」はこれから「田んぼの学校」とみなさんとのお互いの架け橋として創られます。内容は、「田んぼの学校」からのお知らせや、みなさんからのご意見などです。「田んぼの学校」についてわからないことがありましたら、お知らせください。私たち「田んぼの学校」のスタッフも13年目になりました。気がついたこと、いたらないことがありましたら教えてください。わからないことも質問してください。

体験をより充実させる為に

さて、「田んぼの学校」では、みなさんが田んぼでやったこと、見たこと、感じたことを記録することをお勧めします。ノートか野帳（野外観察用のフィールドノート）を用意し、思い思いに記録してください。できましたら、写真（撮りきりカメラで十分）も有るといいと思います。その日にあったこと、学んだことをお子さんと一緒に振り返ることで、体験がより充実したものになります。

種はつながっている

お米の起源は約15000年前、インドもしくは中国雲南で始まったそうです。お米も最初は野生のもので、昔の人は野生の種をまいて育てたようです。そのうちに、まいて育てた稲から種をとるようになり、その種を持って東へ移り住み、または、東の地方にいる人に伝えられ、2000から3000年前に日本に伝わったといわれていましたが、それより以前、6千年前の縄文時代に稲作の痕跡が見つかっています。

お手元にある種籾は、そのときの種とつながっています。品種改良はされていても、遺伝子という形でつながっているのです。

つながらない種

科学が発達して、いろいろなことができるようになりました。その中でも重要なもののひとつに遺伝子に関する技術や発見があります。遺伝子組み換えは、はるか昔からつながっているお米の種に、つながらないものができるということを意味しています。大変難しい問題ですが、一度考えてみる必要があります。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月14日(日)の学習 内容「種籾(たねもみ)の準備」 場所「自宅」

昔から、お米の豊作を願わないものはいませんでした。その最初の仕事が種籾の選別です。中身の詰まった重い種籾が丈夫な稲に育つことを昔の人は経験的に知っていました。

ではどのようにして重い種籾と軽い種籾を区別したのでしょうか。昔の人は、泥水に種籾をつけて沈んだ種籾を使っていました。浮いた種籾は軽くて悪い種籾として選別していたのです。

今は、塩水を使います。薄い食塩水に種籾をつけると重くて良い種籾は沈み、軽くて栄養分の少ない種籾は浮きます。これを「塩水選」といいます。真水では沈む種籾も薄い食塩水では浮くのはなぜでしょうか。おとうさん、おかあさん、子供といっしょに考えましょう。

それでは、同封(開校式でお渡しした)した種籾(もち米で銘柄はマンガツモチ)で塩水選をやってみましょう。

1. 準備

鍋やボールなど適当な入れ物を用意して下さい。

2. 食塩水

真水(水道水でも可)200ccに塩16gを溶かして下さい。この食塩水の比重は約1.08です。もち米はこの食塩水で塩水選をします。かなりしょっぱい食塩水です。



3. 塩水選

この食塩水に種籾をつけてください。

種籾全体をこの塩水につけ、ここで、

沈んだ種籾が良い種籾です。浮いた種籾と沈んだ種籾を別にしてとりだし、それぞれ水で洗ってください。(塩分がついたままでは発芽に悪い)

水の表面張力で浮いている場合がありますので、注意してください。

4. 芽だし

次に、発芽を促すために種籾を新鮮な水に浸けておきます。選別した種籾の両方を同じように別々に水につけてみてください。15℃の水で、約1週間つけると発芽します。20℃なら5日くらいになります。水の温度が高いと早く発芽します。4月22(日)が種まきの予定ですが、それより早く芽が出たら(芽と根が1mm位になったら)、水を切って当日まで冷蔵庫に入れておいてください。低温にすることで発芽の成長が一時的に止まります。くれぐれも芽や根を伸ばしすぎて、モヤシのようにしないようにしてください。

以上



みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の2回目になりました。

いよいよ、田んぼでのしごとがはじまります。田んぼでは、たくさんの生き物たちがみなさんをむかえてくれます。いろいろな草花、虫、鳥などです。どんな生き物に出会えるか楽しみです。

わからないことがある場合は、遠慮なくお問い合わせ（080-5012-5327）ください。

畑の広さの単位

田んぼの広さの単位についてちょっと調べてみました。私たちの田んぼは、3畝（せ）あります。約100坪（つぼ）。坪は畳2枚（3.3平方m）です。

1畝（約99平方m）、10畝で1反（たん、約991平方m）、10反で1町（ちょう、約9917平方m）です。

1畝は約1アール、100アールで1ヘクタールなので、1町が約1ヘクタールになります。

豊臣秀吉は、太閤検地と呼ばれる田畑の全国測量を行いました。そのとき、度量衡の統一も行われました。そのときに、1反360歩を300歩にしました。1畝30歩となり、1アールにきわめて近い値になりました。秀吉（実際に指揮したのは石田三成）は1アールという単位を知っていたものと思われていましたが、調べた範囲ではそれらしい記述が見つかりません。反あたりの税収を上げるために300歩にしたという記述がありましたが、どうでしょうか。みなさんも調べてみませんか。

苗づくり

私たちの田んぼでは、田んぼの中に苗床を作ります。温室などで苗を作らない場合、平均気温が20度以上にならないと成長に影響があります。今年は、この数年のなかでも寒いので、苗の成長が遅れるかもしれません。

お米を生産する農家では、機械植えが普通なので、苗は温室で育てられ、5月中ごろ（関東）には田植えが行われます。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月20日（土）の学習（10:00～15:00）、4月21日（日）（10:00～12:00）

- 内容： 苗床作り、種まき
場所： 田んぼ
持ち物その他： 作業着、軍手、昼食

苗床作り（20日）

苗床（なえとこ）は種籾をまいて稲の苗を育てるところです。発芽した種籾はここで丈夫な苗として育ちます。



1. 田んぼの南側寄りに1 m幅、4 m長の広さで苗床用の場所を東西方向に2本確保し、草を刈り取ります。
2. 耕運機でできるだけ細かく耕します。
3. 中央に1 m幅の短冊状の畝（うね）を作ります。高さは周囲と同じ高さにします。
4. 両脇に10 cmくらいの深さで水路をつけ、用水の引き込み口から水路をつなげて水を引き込めるようにします。
5. 畝は草の根やごみを取り除き、大きな土の固まりはふるいで選り分けて手ですりつぶします。

畦草刈り

農家の人にとって雑草（正確にはいろいろな野草というべき）は天敵と考えられています。雑草は、作物の栄養分を取ってしまったたり、成長を妨げたりするからです。雑草取りは農家の人にとっては大変な重労働なので、除草剤などが使われたりしますが、有機農法では除草剤は使いません。最近では、雑草を味方にする研究なども行われています。いずれにしても、まわりの畑に雑草の種が撒き散らされることも有るので、雑草をそのままにすることはできません。

1. 小さい草刈りガマで畦（あぜ）の草刈りをします。
2. 刈り取った草は適当な場所に積み上げておきます。後日、荒起こしのときに田んぼに漉き込みます。このように刈り取った草は緑肥と呼ばれ、立派な有機肥料です。漉き込まれた草は土の中で腐敗して肥料になるからです。

畑の草取り

暖かくなると、畑にもどンドン草が生えてきます。小さいうちにとるのが賢明です。

種まき(21日午前)

みなさんに準備していただいた種籾(もち米)と当会が準備した種籾を苗床に蒔きます。蒔き方はいろいろ有りますが、ちょうど良く蒔く(?)のがいちばん。

1. 苗床をもち米用(南側)、うるち米用(北側)にわけます。
2. 用意した種籾を厚すぎず、薄すぎず、ちょうど良く蒔きます。
3. 各自準備した種籾も、蒔きます。
4. 蒔いた種籾の上に薄く(3から5 mmくらい)細かい土をかけます。(覆土・ふくど)
5. 板などを使ってある程度土を固めます。(鎮圧・ちんあつ)
6. 苗床全体にかまぼこ状にネット(寒冷紗・かんれいしゃ)をかけます。(防鳥)
7. 水路に水を引き込みます。水はかれない程度に苗床の周囲に回るようにします。





みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の3回目になりました。

私たちの田んぼは佐須の用水に依存しています。現在も水利組合によって私たちの使っている用水の支流は田んぼで水を使う時期に泥さらいを行っています。本流は残念ながら、手つかずの状態です。20年ほど前、佐須用水の貴重な環境に注目した私たちは、ゴミが大量に捨てられている用水路の清掃を兼ねた生き物観察会を始めました。最初の1、2年はトラック1台分位のゴミを回収したこともありましたが、いまではその10分の1くらいまで減っています。それでも、毎年ゴミが回収される状況が続いています。昔は、用水で洗い物などを行っていることもあり、ゴミを捨てるようなことはなかったと思いますが、今では、用水に依存することがない人が多く住むようになって、その大切さが意識されていません。私たちの活動で、用水の貴重さが理解されることを期待しています。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月28日(日) (10:00~15:00)

- 内容： 用水路清掃、生き物観察会、種まき
場所： 佐須用水、田んぼ
持ち物その他： 作業着、軍手、用水路に入ることでできる靴（サンダルは不可）
子供の着替え（水につかってしまうことがあります）
昼食、種籾

用水路清掃

私たちの田んぼは、カニ山奥の谷戸から湧き出る水を利用しています。このように水を地域の人たちと共同で利用する場合、利用する人たちが集まって組合を作り、共同で管理することが大昔から行われてきました。「田んぼの学校」でも利用させていただく感謝の意味を込めて、また、そこに生きる生き物たちが棲みやすいようにと清掃活動を続けてきました。



用水路生き物観察会

用水路清掃にあわせて行われるのが用水路の生き物観察会です。田んぼに水を供給してくれる用水は、同時に、多くの水生生物の恵みにもなっています。湧水は元は直接飲料水に使えるほどきれいなものでしたが、多くの方が周りに住むようになり、その影響を受け、次第に飲料水としては使えなくなりました。（今でも沸騰させれば飲めます）用水路の生き物を観察することは、水の汚れ具合を知る指標にもなります。そこに生きている生き物が、この水の安全性を証明してくれているわけです。

田んぼからのおたより2013

第4号 2013年5月19日発行

みなさん、お元気ですか。私たちの田んぼの最大の問題は水です。今年はどうでしょうか。

柏野小学校裏の田んぼ、ホテル園コーポ前の田んぼ、そして私たちの田んぼには大きな違いがありますが、気がついた人はいますか。柏野小学校裏の田んぼは冬の間、田んぼに草がほとんど生えませんでした。ホテル園コーポ前の田んぼは少しだけ草が生えていました。私たちの田んぼは草でいっぱいでした。草が生えないということは、そこには草の種がまったくといっていいほどないということを意味しています。それでも草の種は飛んできたり、動物が運んだりして芽を出し、成長して、やがて種を落としますが、その前に草を取ることで次の世代を作らなければ草のない畑になります。除草剤の助けがなければ、大変な仕事です。雑草が全く生えない田んぼはちょっと気になります。となりの田んぼは草が生い茂っていましたが、今年は枯れずに草刈りされたようです。この何年かで、この田んぼの様子は明らかにいい方向に推移しているようです。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



5月15日の苗床

5月19日（日）10:00～12:00 の学習

内容「◎堆肥入れ◎畦草刈り◎畑草取り◎荒起こし◎くろつけ準備」 場所「田んぼ」

堆肥入れ

堆肥置き場から堆肥を田んぼに運び漉き込みます。堆肥としてはできるだけ十分に発酵したものを使いますが、そうでなくても、土の中で更に分解されて肥料となります。

1. 堆肥をリヤカーで4, 5杯分田んぼに運んできます。
2. 堆肥を田んぼ一面にまんべんなく撒きます。
3. 小枝などの硬いものは分解されにくいので取り除きます。

畑と畦の草刈り

くろつけを行うために、畦の草を刈り取ります。畑の草取りも一緒に行います。

荒起こし

田んぼ全体を耕運機で荒く耕し、堆肥を土に漉き込みます。

くろつけ準備

畦の整理（昨年くろつけで盛った土を削ったり、崩れている部分を補修）を行ない、畦にそって水路の水を引き込み、くろつけの準備をします。

田んぼからのおたより2013

第5号 2013年6月9日発行

みなさん、お元気ですか。

今年は水不足になりそうな感じです。ちょっと、心配です。

個人的なことになりますが、田んぼをはじめから生活の中で一番変わったことが、雨を単純に毛嫌いすることがなくなったことです。それまでは、雨になると外出が億劫になったりしたのですが、結構雨を楽しめるように変わったのです。現金なものですが、雨が大切な作物の生育に欠かせないものであり、生き物にとってなくてはならない水を供給する循環の一翼を担っている点で改めてその機能を見直したいです。

みなさんは、雨を楽しんでいますか？

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

苗の様子（5月31日）



荒起こし（5月19日）

6月9日（日）（10：00～15：00）の学習

内容「くろつけ」 場所「田んぼ」

服装 どろんこになってもいい服装にしてください。子供は着替えを持ってきてください。
足で泥をこねたりしますので、長靴ではできません。基本的には裸足、地下足袋、
靴下でやります。

持ち物 タオル、着替え、昼食

くろつけ

－「くろ」とは畦（あぜ）のことです。「くろつけ」は畦から水が漏れないようにするための作業です。泥をこねて、畦に泥を塗りつけて、表面を滑らかにします。土だけではたくさんの小さな穴が空いているので、水が漏れてしまいます。土を泥状にすることで、土の粒の間のすきまがなくなり、水が漏れにくくなります。写真はくろつけの様子です。

1. 畦にそって引き込まれた水と田んぼの土をまぜて泥をこねる。泥は畦の天上部と内側に壁塗りをするように塗り付けるのにちょうどよい硬さにするのが早く仕上げるコツである。
2. くろつけは水の引き入れ口からみて一番奥の部分から仕上げていく。
3. くろつけが終わったら、畦が乾かないように水路をつけて水を引き込んでおく。
4. 田んぼの内部にも水が入るように水路をつける。
5. 水路に水がなくならないように引き入れ口を調節する。



田んぼからのおたより2013

第6号 2013年6月15日発行

みなさん、お元気ですか。いよいよ田植えですが、今年は意外に水が少ないようです。まだ、田植えができていない田んぼがあるので、ちょっと心配です。台風が来て、今週いっぱい雨模様になるようですが、恵みの雨になると期待したいです。

これまでも、いくどか水不足はありましたが、ほとんど何とか耐えました。水争いは昔から命がけのものだったようです。「我田引水」という言葉がありますが、他人のことを考えず、自分に都合が良いように考えたり、ものごとを行ったりすることという意味があります。このような言葉が残って使われるほど、他の田んぼのことを考えずに自分の田んぼにだけ水を引くことが実際にあったということでしょう。農業用水のほとんどは、上流から順に取水されるため、下流の農家は不利になります。お米が年貢として納められていたことを考えると、仕方がないことのようにも思えますが、いかがでしょうか。

今週の土曜日にしろかき、日曜日に田植えを行います。土曜日の天気予報は雨模様ですが、連絡網のお知らせに注意してください。

今年のくろつけ



昨年のしろかきと苗取りのようす

6月15日(土)(10:00~14:00)の学習

内容「しろかき」「苗取り」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」

足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、昼食、水筒

しろかき

田んぼに水を引き、土と混ぜて、どろどろ状態にし、平らにして田植えの準備を言います。大半に作業は耕耘機でやりますが、平らにならすのは人でなければできない仕事で、けっこう重労働です。

苗取り

苗床から元気に育った苗を取ります。乾いた土の状態ですと、水を引いて土を洗いながらとる方法があります。今回はしろかきと同時なので水を引いて苗を取ります。

苗はもち米とうるち米と混ざらないように、もち米を取ってから、うるちを取ります。

取った苗は、一握りの大きさにして稲藁で結わえ、コンテナに入れて、水路につけておきます。

6月16日(日)(10:00~14:00)の学習

内容「田植え」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」

足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、昼食、水筒
(注意 午前と午後に分けて作業をします。 午前中にくることができない場合はお知らせください。)

田植え

お米の苗をしろかきの終わった田んぼに植え付けます。田んぼの南側から植え付けていきます。最初にもち米(全体の約半分)、次にうるち米を植え付けます。

1. 25cm間隔で目印のついた紐を用意して、東西方向に張る。(両端を人が持つ)
2. 苗を植える人は一握りの苗を持って、紐の北側に南を向いて適当な間隔で並びます。
3. 一度に植える苗は2、3本くらいで、大きな苗を植えるようにします。
4. 合図があったら、自分の持ち分に植え付ける。植え付ける場所は、紐の手前側に、目印のあるところ。
5. 自分の分が終わったら、一步下がって、これから植え付けるところを手でならす。
6. 全員が終わったら、紐を25cm北側に移動する。
7. 以上を繰り返していく。

田んぼからのおたより2013

第7号 2013年7月7日発行

みなさん、お元気ですか。

今年は、水不足が心配されましたが、直前に降った雨で田植えを終えることができました。ただ、隣の田んぼは十分な水がないので田植えができていません。植えた苗は順調に成長していますが、水草もいっぱい。水草の影響は、水温が上がらないことくらいでしょうか。

さて、田んぼの生き物たちはどうなっているのでしょうか。いつものようにたくさんの生き物がいるといいですね。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



田植えが終わったのたんぼに5羽のカルガモが

田植えの様子



7月7日(日)(11:00~12:00)の学習

内容「畑の草取り」「草取り、根搔き」「畦草刈り」「生き物観察」 場所「田んぼ」

服装 普通に作業のできる服装でてください。草取り、根搔きは田んぼの様子を見てやります。畑の草取りも行いますので、長袖、長ズボンをお願いします。

持ち物 タオル、軍手、蚊取り線香(携帯用)、飲み物

草取り(一番草)

この時期に行う草取りを一番草といいます。私たちの田んぼは、これまであまり草取りの必要がありませんでしたが、だいぶ目立つようになりました。生き物観察の後、草取りをします。

根搔き

根搔きと言う作業は、稲の根の回りの泥をかき回して空気を送ったり、根を切ることで、根の生育を促進する目的があります。昔は、草取りと根搔きを両方を行う道具がありました。

根搔きの作業も私たちの田んぼでは、やっていません。根搔きはやったほうが良いという意見と、必要がないという意見があり、必ずしもどちらが良いとは言いきれないようです。

生き物観察

田んぼに水が入ると、田んぼには劇的な変化が現れます。その様子を観察します。

田んぼからのおたより2013

第8号 2013年8月23日発行

みなさん、お元気ですか。今年は、水不足で隣の田んぼは結局田植えができませんでした。私たちの田んぼもちょっと異変があります。例年田植えの後発生するハウネンエビがほとんど見られないことです。アマガエルもオタマジャクシは結構いたようですがカエルになった数がちょっと少ない気がします。西側の畦に竹を打ち込んだことでモグラの被害は減りました。

今年も、昨年につき、用水路と田んぼの一体化による水管理をしています。水路の堰とセリの畑と田んぼの水面がほぼ一致していて、基本的に水中の生物が行き来できる状態になっています。

田んぼはプランクトンが豊富で魚類、両生類、水生昆虫などにとって、餌に不自由しない場所となっています。昔の田んぼは大体そのようになっていたはずですが。殺虫剤や農薬、化学肥料などが使われるようになって、それらが用水路に流出することが問題となったので、田んぼの水を水路に戻すことをやめてしまいました。佐須の田んぼも用水路の整備を行った時点で田んぼに引き込んだ水は地中に浸透させるか、下水に流すようになっていました。私たちの田んぼは基本的に水路の水を汚すことがないため、一体化を考えていました。

7月28日の田んぼ



アジアイトトンボ

柏野夏祭り

「田んぼの学校」では、地域の方々との交流を積極的に行うため、毎年柏野小学校で行われる地域の夏祭り「柏野夏祭り」に模擬店「焼鳥屋」で参加しています。今年の日程は以下の通りです。

8月23日(金)	9:00から12:00	会場設営
8月23日(金)	16:30から20:00	夏祭り
8月24日(土)	16:30から20:00	夏祭り
8月25日(日)	9:00から12:00	片づけ

夏祭りへの参加はボランティアで、自由参加ですが、焼き鳥を焼く体験は大変楽しく、また貴重(他ではできない体験)です。当会の貴重な運営資金を作る場でもあり、是非参加してください。特に金曜日はスタッフが足りません。奮って参加を。夏祭りの子ども向け模擬店もゲーム、綿飴、かき氷など盛りだくさんで、

子どもになかなかの評判です。参加の希望は、**7月31日までに**尾辻(TEL/FAX 042-487-4385)まで参加申し込み表をFAXするか、参加枠記号を電話でご連絡ください。参加の時間帯も自由です。

つまみ、お酒の差し入れ大歓迎です。詳しいことは、電話でお尋ねください。

7月31日までに必ずFAX (042-487-4385)

柏野夏祭り参加申し込み (FAX用)

出席 欠席 します。(どちらかに○)

参加者氏名

参加できる欄 (いくつでも可) に○を記入してください。

参加枠記号	日付	時間帯	内容	参加 (○)
A	8月23日(金)	9:00~12:00	会場設営	
B	8月23日(金)	13:00~16:30	仕込み(焼き鳥を解凍します)	
C	8月23日(金)	16:30~18:30	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
D	8月23日(金)	18:30~20:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
E	8月24日(土)	13:00~16:30	仕込み(焼き鳥を解凍します)	
F	8月24日(土)	16:30~18:30	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
G	8月24日(土)	18:30~20:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
H	8月25日(日)	9:00~12:00	片づけ	

田んぼからのおたより2013

第9号 2013年9月15日発行

みなさん、お元気ですか。今年の夏は昨年が続いて熱帯夜が続く日が多く、雨も降らず、大変でした。

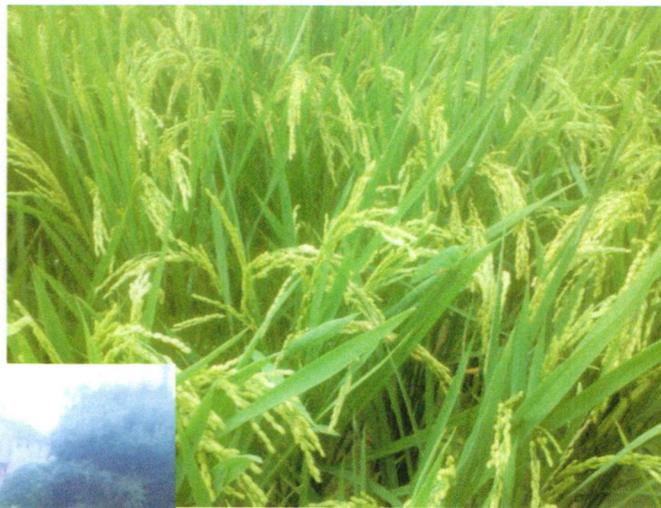
柏野小学校の夏祭りは少し雨が降りましたが、準備した4,500本のうち、金曜日約2,000本、土曜日約2,500本を売上げました。両日完売となりました。お手伝いいただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。

さて、4年前スズメ被害が拡大し、収穫が減るとい大変な事態になりました。一昨年は早めの対策が必要と思い、穂が出ると同時に全面を防鳥網で覆うことにしましたが、それでも、網を全然恐れないスズメが隙間から入って食べているほどでした。今年も、その経験を生かして、2重に網を張るなど万全の体制で対応しています。

「スズメ対策」の定番といえば、案山子（かかし）です。大いに工夫してスズメの恐がる案山子を作ってください。光ったり、音が出たりするものがあるといいかな？ ことしも創造性豊かな案山子を期待しています。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

このバッタは？



8月12日の田んぼです。

9月15日(日)(10:00~13:00)の学習

内容「田んぼの生き物観察、カカシ作り」 場所「田んぼ」

持参するもの 案山子の材料(垂木以外のもの)、大工道具

田んぼの観察

残暑が厳しく、朝夕は秋の気配が感じられますが、夏が続いているようです。それでも田んぼの様子も少しずつ変わっています。秋の田んぼをじっくりと観察してみましょう。

カカシ(案山子)作り

芸術の秋とも言います。調布のすずめは少し賢いので、みなさんの創意工夫をおおいに期待しています。芸術性を追求するか、実用本位でいくか家族会議で検討してください。一家族で案山子一体作っていただきます。骨格となる部分の垂木は事務局で用意します。案山子に着せる服や、飾り付けなどの材料や大工道具は持参してください。



4年前のスズメに食べられた様子

田んぼからのおたより2013

第10号 2013年10月5日発行

みなさん、お元気ですか。いよいよ稲刈りです。4月28日に種まきをしてから5ヶ月強、6月16日に田植えをしてから4ヶ月弱、順調に生育し、雀の被害もほとんどありませんでしたが、台風の風と雨でかなりの稲が倒されました。ちょっと心配な状況で稲刈りを迎えることとなりました。今年は例年より雨が降らず、久々の渇水となりましたが、何とか田植えもできましたが、隣の田んぼは田植えができないままとなりました。

調布産の、自分たちの新米を食べるのが今から楽しみです。うるち米は「キヌヒカリ」という品種です。有名なコシヒカリの遺伝子を受け継いでいる品種です。もち米はマンゲツモチという品種です。

刈り取った稲ははざかけをします。2週間くらいで稲は乾燥し、脱穀できるようになります。十分に乾燥していないと脱穀した粃が発酵してしまうことがあるようです。

はざかけ（はさかけともいう）の「はさ（稲架）」は刈り取った稲をかけて干すしくみのことです。日本全国にいろいろな形があります。田んぼの畦に木がある光景を見たことがありますか。

あれは、はさかけのために植えられたはんのき（榛の木）です。（カバノキ科の落葉高木。山野

の湿地に自生。幹は直立し、15メートルに達する。）湿地に直立してくれるということは、はさの心棒にはもってこいですね。

稲刈りは、刈り取り用のカマを使います。カマの扱いには、十分気をつけてください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

はざかけされた稲(一昨年)



10月5日(土)(10:00~12:00)の学習

10月6日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「ハザ掛け準備、稲刈り」 場所「田んぼ」

服装 長袖、長ズボンの作業着、軍手

ハザ掛け準備

はざは、1段掛けのものを南北に4列田んぼ内に設置します。

1. 最初にはざの足場用の場所(6箇所)の稲刈りを最初に行います。
2. 足場用の垂木3本を1組にして荒縄で組んで3脚にしたものを、合計12組作ります。
3. 1列につき、3組の足場を並べます。
4. 10m前後の竹竿を3本くらい束ねて丈夫な1本の竿にして、足場の上に固定します。
5. 必要に応じて、竿を補強してください。

稲刈り

5日はうるち米、6日はもち米の刈り取りをします。

1. 稲株を左手で握り、右手の鎌で根元から刈ります。
2. 刈り取った稲は1握り分づつを根元をクロスさせて2握りを1組にしておいていきます。
3. クロスしておかれた稲の束を濡らした稲わら3、4本で根元を結わえます。
4. 結わえられた稲束をクロスしたところで左右に振り分けてはさに掛けていきます。
5. はさかけの周りに鳥除けの網を張ります。

田んぼからのおたより2013

第11号 2013年11月3日発行

みなさん、お元気ですか。今年は、10月に入ってからの台風などの天候不良の影響を受けて予定がたびたび変わっています。今回も、延期になりました。台風でハザカケが2列倒れましたが、水に濡れた稲もその後の天候で何とか乾いてほっとしています。

通常ですと2, 3週間も乾燥させると稲わらの水分もなくなりずいぶんと軽くなります。

脱穀とは、稲から粃を分離させることです。大昔は千把扱き（せんばこき）というもので脱穀していました。鉄片を櫛の歯のように並べ、それへ稲穂をひっかけて、粃（もみ）をしごき落とします。約300年前の元禄年間（1688-1704）に考案されたようですが、いまでも農家の納屋にこれが残っていることがあり、昭和のはじめ頃までは使っていたのではないかと思います。

当会には、足踏み脱穀機（ミノル式）がありましたが、これは、1910年（明治43年）の発明といわれています。千把扱きに比べ8倍の能力があるそうです。脱穀機で落とした粃と藁くずを分別する機械が唐箕（とうみ）です。唐箕の前は、風を利用して箕に入れた粃と藁くずを振って分別していました。脱穀している時は、ほこりがたくさん出ます。ぼうしとマスクを用意してください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

先日の稲刈りの様子



ハザ掛け

11月3日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「脱穀」、場所「田んぼ」

服装「作業着、ぼうし、マスク」

なお、前日、当日が雨天の場合、翌週の11月10日(日)(10:00~12:00)に延期します。

脱穀(だっこく)

稲穂から粃を取ることを脱穀といいます。粃の状態は種と同じで、長期保存する場合は粃の状態で行います。次の年の種にするものは特に種粃といいます。

縄文時代前期(6000年前)には日本で稲作がおこなわれていた遺跡(陸稲米)が見つかり、弥生時代中期には北海道以外の日本全国で稲作(水稲)がおこなわれるようになったようです。その頃の脱穀はおそらく手か石器でしごき取っていたと思われます。

脱穀は、組合所有の脱穀機を使います。ガソリンエンジンで自走でき、あっという間に脱穀は終わります。

写真は自走式脱穀機



田んぼからのおたより2013

第12号 2013年11月17日発行

みなさん、お元気ですか。雨の影響で1週間遅れて11月3日に天日干しされた稲穂から粃を取る脱穀を行いました。今週は、粃摺りと精米です。粃摺りは粃の外皮を取り除く作業です。江戸時代には土臼などが使われたようですが、現在はゴムロール式と衝撃式といういずれもゴムを使ったものになっています。昨年、これまでの粃摺り機が壊れてしまったので、粃摺りと精米が両方兼用の中古の粃摺り精米機を購入しました。

粃摺りによって粃殻(外皮)がとれた米を「玄米」といいます。最近はこの「玄米」を食べる人が増えてきました。これは、普通みなさんが食べている「白米」にくらべてビタミンB群、E、リノール酸、ミネラルなどの栄養価の高い成分が多く含まれていることや、便秘に効くということがあるためです。ただ、炊き方がややめんどろです。それでも、最近の炊飯器は優れものが多いです。玄米も柔らかく炊けます。

「玄米」と「白米」の中間に「胚芽米(はいがまい)」、「発芽玄米」というのがあります。以前から「白米」を10分として、ぬか部分の削り具合によって3分・5分・7分搗きというお米がありました。「胚芽米」は特に重要な「胚芽」(発芽する部分)を残すようにしたものを言うようです。「玄米」の表面には消化されにくい米ぬか層があり、「胚芽」を含めてこれを全部削り取ったものが「白米」になるわけです。「胚芽米」にもその削り加減で3分・5分・7分搗きなどがあります。「胚芽米」は米ぬかに含まれている前記の栄養があるうえ、「白米」と同じ様に炊くことが出来、消化吸収も良いということで、人気があるようです。

「発芽胚芽米」というのを聞いたことがありますか。「胚芽米」を研いだ後、40度くらいのぬるま湯に2時間ほどつけると、胚芽部分が膨らみます。詳しいことはわかりませんが、ぬるま湯につけることで発芽が進むようです。その後、普通に炊くと出来上がります。「胚芽米」と「発芽胚芽米」のどちらがおいしいか、どちらがより栄養価が高いかはよくわかりません。

最近、金芽米というお米が出回るようになりました。胚芽米よりの栄養価を残し、白米のおいしさを持つと言われます。日本のこの飽くなき探究心と技術にはほんとに感心します。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

脱穀機による脱穀



11月17日（日）（10：00～14：00）の学習

内容「籾摺り」、「精米」 場所「田んぼ」

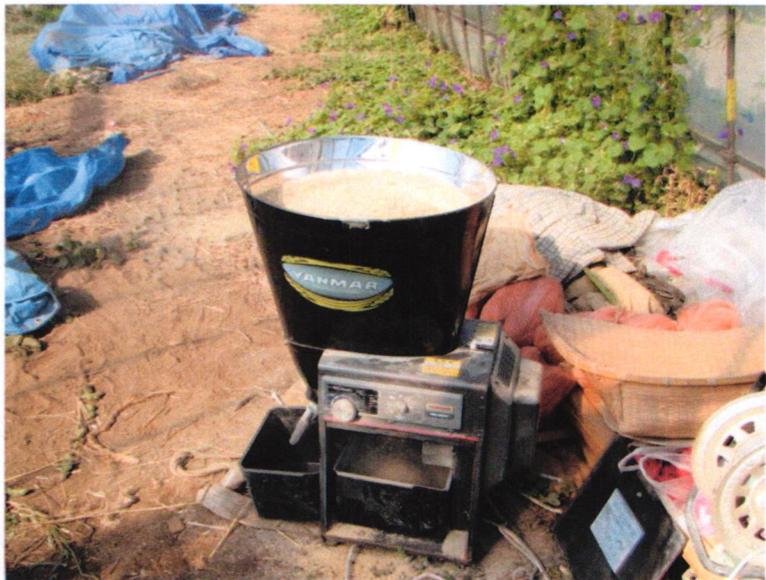
籾摺り

脱穀で稲わらから取った稲の実を籾といいます。籾は種の状態、外皮に守られていますので、長期に保存が出来ます。籾から外皮(籾殻)を取り除いて「玄米」にする作業が籾摺りです。この言葉は文字どおり籾を擦りあわせることが語源になっています。籾殻は結構頑丈に出来ていて、つめを立てないと取れません。どうすればこの外皮をうまくとれるのでしょうか？みなさん、考えてみてください。持ってくる方が出来る方はすり鉢とゴムの野球ボールをお持ちください。答えは田んぼで。

精米

籾摺りが終わった状態のお米が玄米と呼ばれます。玄米から胚芽米や白米をすることを「精米」といいます。もち米はぬかを全部取り、「白米」にします。うるち米はほぼ玄米にちかい状態を目標に精米します。籾摺り機と精米機は同じ物です。玄米を精米機にかけるだけなので、見学となります。時間内にお越しください。

新しい籾摺り精米機



田んぼからのおたより2013

第13号 2013年11月23日発行

みなさん、お元気ですか。稲刈り、脱穀、粃摺り、精米が順調に終了することが出来、いよいよ収穫祭です。今年の収穫は、例年より少なめで約104Kgでした。分けつが少なかったように思われます。

さて、私たちの作ったうるち米は関東で比較的多く栽培されている「きぬひかり」という銘柄です。茨城県では奨励品種になっています。コシヒカリの血統を受け継ぎ、炊きあがりの絹のような色つや、そして食味も好評ということです。お米の味は、新米の精米直後がよりおいしく味わえます。また、炊き方によっても味が変わってくるので、おいしく食べるには細心の注意を払ってください。おいしく炊くコツの一つはお米を研いだ後の「浸けおき」です。20度の水温の水で1時間つけると最適です。何かと忙しいおりですが、段取りを付けて、1時間浸けおきをやってみてください。

収穫祭のお知らせ

収穫祭は、作物の収穫を祝って行うお祭りです。毎年11月23日の勤労感謝の日に行ってきましたが、それなりに意味があります。この日は、「新嘗祭（にいなめさい）」が行われている日に当たります。「新嘗祭」は「しんじょうさい」ともいい、「新」は新穀を「嘗」はご馳走を意味します。毎年この日に全国の神社で行われ、新穀を得たことを神さまに感謝する新嘗祭は、五穀の豊穰を祈願した2月17日の祈年祭と相対する関係にあるお祭りです。新嘗祭の起源は古く、『古事記』にも天照大御神が新嘗祭を行ったことが記されています。私たちの会では、収穫をもたらしてくれたすべてのものに感謝の気持ちを表すために収穫祭を行っています。出来るだけたくさんの人とお祝いしたいと思いますので、お友達などお誘い合わせの上、おいで頂きたいと思います。お祝い事ですので、お酒やおつまみなどの持ち込みは大歓迎です。

つきたてのお餅を食べるときの具（おろし醤油、納豆、きな粉、あんこなど）をいろいろ用意しておりますが、ご自分の田舎で食べる具でこれはぜひというのがありましたら、みなさんにご披露してください。なお、お年寄りの方（70歳以上）、幼児は無料で参加いただけます。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



11月23日(土)(9:00~15:00)の学習

内容「収穫祭」 場所「田んぼ」

持ち物 お椀、お皿、はし、飲み物、包丁、まな板

会費 大人(中学生以上)300円、子供(小学生)100円(食材費に当てます)

酒代(お酒を飲む人)

その他 当日が雨の場合、12月1日(日)に順延します。

収穫祭

田んぼで取れたもち米(約18Kg)で餅つきを行います。最初の一臼は一年の感謝を込めて、お供えもちとして竹内さんに献上します。二臼目からはいろいろな具といっしょに皆さんで味わっていただきます。お餅の他には豚汁、焼き物(干物、焼き芋など)を用意する予定です。参考までに餅つきの簡単な手順を説明します。

餅つきの手順

1. もち米の浸けおき

もち米は前日に研いで、水に浸けておきます。

2. 湯沸かし

蒸し器用の湯とは別にお湯をたくさん沸かします。洗い物や、臼、杵を温めておいたりするために使います。

3. もち米を蒸す

浸けおきしたもち米はざるで水を切った後、蒸し器に1升(1臼分)ずつ入れて蒸します。お米の芯が残らないように十分に蒸します。

4. こねる

蒸しあがったもち米は手早く臼に入れ、米粒の形がなくなるまで、杵でこねてすりつぶします。これもできるだけ早くやります。

5. 搗く

十分にこねたら、搗き始めます。臼の中の餅は搗きやすいように相方が手で寄せます。搗き手と相方の呼吸が大事です。また、餅が熱いため、手に水を付けますが、つけすぎると水っぽくなるので、注意が必要です。

搗いた杵がもちから反発力を感じるようになれば搗き上がりです。

6. 粉にまぶす

搗きあがった餅はそのままでは何にでもくっつくので、のし台に米粉や片栗粉でまぶします。

追伸

今年は、とれたお米を希望する方に1Kg400円で販売します。23日に一家族あたりうるち米(白米)2Kg、もち米1Kg(合計1,200円)販売します。

田んぼからのおたより2013

第14号 2013年12月8日発行

みなさん、お元気ですか。今回はカニ山でキャンプをします。カニ山は、田んぼの用水が湧き出ている谷の雑木林で、昔、たくさんの湧き水があって、沢ガニがたくさんいたのでこの名前が付いたようです。コナラ、クヌギといった武蔵野の雑木林を今も残しているところです。雑木林は、堆肥にする落ち葉や薪にするシバ、炭や薪にする材木を取るために、人が入って管理していた自然（二次自然ともいう）の森です。そのため、切り株からまた枝をのぼして大きくなる（萌芽更新という）コナラやクヌギの仲間が残され、木の背丈も10m位に維持されていました。ちょうど薪にしたり、炭焼きにするのにいい太さで切られるためにいつもそのくらいになるわけです。現在、都会にある自然を残すために、雑木林が残されることがありますが、その多くは、人間が手を入れないため、コナラ、クヌギなどが大きくなりすぎて、昔の「武蔵野の雑木林」の面影を残してはいません。カニ山も残念ながら、木が大きくなり過ぎ、人もたくさんはいるので、地面が固くなっています。本来の雑木林は、その地面にたくさんの水を含んで貯める保水機能も持っていて、湧き水が枯れない要因にもなっています。

右の写真は収穫祭



炭焼きキャンプの出欠連絡

準備の都合上、事前に出欠の連絡をお願い致します。**12月4日夜までにメール**でお名前、大人の数、子どもの数、幼児の数を返信して下さい。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

12月8日(日)9:00~16:00の学習

内容 炭焼きキャンプ 場所 カニ山

持ち物 食器(はし、皿、茶碗、お椀、コップ)、調理器(包丁)、着替え、おやつ
(飲み物はこちらで用意します)、空き缶(鉄板でできた茶筒やせんべいの箱などで、しっかりふたができるもの。炭焼きに使います)、炭材(炭にしたいもの。マツボックリ、ドングリ、栗、割り箸、花など)、差し入れ(自由です。おやつや酒の肴など歓迎)、お米(幼児を除く参加者一人1合)
(はチェックのためにお使いください。)

参加費 大人 700円、小学生以上の子ども 200円、幼児(無料)

その他 駐車場がないので、車での参加はご遠慮下さい。雨天の場合は中止(連絡網にて通知)とします。

スケジュール

9:00	集合	カニ山キャンプ場(かまどがあるところ)。時間厳守
9:30	授業	火起こし(火起こしの学習)、炭焼き、焼き芋
11:00	昼食準備	(父母)
12:00	昼食、懇談	カレー、手羽焼き他の予定(炭で焼きます)
13:00	炭焼き終了	
13:30	授業	しめ縄作り
15:30	片付け	
16:00	解散	

田んぼからのおたより2013

第15号 2013年12月15日発行

みなさん、お元気ですか。関東の平野部や調布でも紅葉が見られるようになりました。早いものはすでに葉を散らしています。2011年以降、放射能の影響を考慮して落ち葉拾いを中止してきましたが、今年から再開することとしました。

落ち葉などによる堆肥作りは農業に一番大切な「土づくり」にかかせない作業の一つです。「土づくり」のなかで一つの柱となるのが栄養分でしょう。肥えた土地、痩せた土地という時、栄養分が有るか無いかを示しています。これまで、22年間、無農薬、有機栽培を目標に、毎年田んぼに堆肥を入れてきました。堆肥の原料は、カニ山の落ち葉、収穫したお米を精米した時に取れる米ぬかなどです。堆肥を作る場所は竹内さんの堆肥置き場を共同で使わせていただいています。落ち葉、米ぬかは、混ぜ合わせて寝かせます。寝かせた落ち葉は菌類などの働きにより発酵します。発酵が順調に進むように適当に天地返し作業をします。完全な有機栽培にはこのような「土づくり」が何より大切です。農業の基本は土づくりといってもいいくらいです。カニ山は、田んぼの用水が湧き出ている谷の雑木林で、昔、たくさんの湧き水があつて、沢ガニがたくさんいたのでこの名前が付いたようです。コナラ、クヌギといった武蔵野の雑木林を今も残しているところです。雑木林は、堆肥にする落ち葉や薪にするシバ、炭や薪にする材木を取るために、人が入って管理していた自然（二次自然ともいう）の森です。そのため、切り株からまた枝をのばして大きくなる（萌芽更新という）コナラやクヌギの仲間が残され、木の背丈も10m位に維持されていました。ちょうど薪にしたり、炭焼きにするのにいい太さで切られるためにいつもそのくらいになるわけです。現在、都会にある自然を残すために、雑木林が残されることがありますが、その多くは、人間が手を入れないため、コナラ、クヌギなどが大きくなりすぎて、昔の「武蔵野の雑木林」の面影を残してはいません。カニ山も残念ながら、木が大きくなり過ぎ、人もたくさんはいるので、地面が固くなっています。本来の雑木林は、その地面にたくさんの水を含んで貯める保水機能も持っていて、湧き水が枯れない要因にもなっています。



炭焼きキャンプの様子

12月15日(日)9:00~11:30)の学習

内容 落ち葉拾い

場所 カニ山

持ち物 軍手、長靴

田んぼからのおたより2013

第16号 2014年1月11日発行

新年あけましておめでとうございます。田んぼの学校の授業もあと3回となりました。もう少しがんばりましょう。東北大震災と福島第一原発の事故から3年近くたちました。地震や津波は自然災害ですが、今回は数百年に一度という確率のものでした。地域によっては高さが20mにもなる堤防を作る計画があるようですが、景観などを考えると疑問に思わざるを得ません。

調布市の学校給食では、放射能に汚染された食材が含まれているかどうかは現在事前検査をしていません。調布市では、自校方式により給食が提供されているため、事前にすべての食材を検査することは困難ですが、先日、事後検査において10ベクレルくらいの値があると思われるレンコンが提供されていたことが報告されました。市場には、100ベクレルまでであれば、出回る可能性があり、いつ給食にその様な食材が使われるかわかりません。ちょうふ市民放射能測定室では、これまで様々な食材の検査を行った実績などから、危険な食材をある程度限定できると言っております。このような市民レベルの測定室が全国で活動しており、それらのデータも活用することで、子どもたちが内部被ばくで汚染される危険をかなり防ぐことができます。私たち大人は原発をつくることを推進し、このような事態を引き起こした責任を取らなければなりません。子どもたちのためにできる限りのことをしなければならぬ責務があると思います。

あらためて、放射能と共に生きなければならなくなったことの事態の大きさを認識し、私たちができることをしたいと思います。

当会では、今年も収穫されたお米の放射能測定をちょうふ市民放射能測定室の協力を得て行いました。結果は不検出でした。

さて、今回の授業は佐須地域の行事「どんど焼き」体験と「土作り」としての落ち葉たい肥の天地返しです。

「どんど焼き」は、お正月の松飾りや門松、書初めなどを持ち寄り、集めて燃やします。その火にあたることで、一年間の無病息災がかなうといわれています。また、その熾火（おきび）でお餅や団子を焼いて食べることで風邪をひかないなどといわれています。いずれにしても昔から行われてきているこのような行事の謂われなどは多分に神様（昔からいたる所に神様が宿っていた）に対する感謝と願いが込められたものであることに違いはないように思われます。今回の授業では、実際にその行事を見学し、あらためてそのような行事が地域で長年にわたり続けられてきたのかということを考えていただければと思います。

右と下の写真はどんど焼き



もうひとつの授業が「土作り」です。2011年は、放射能の汚染問題があるため、落ち葉集めを中止しましたが、今年も落ち葉集めは中止になりました。したがって、天地返しも中止とします。

作物を作る上で、土作りは大変重要な要素です。特に落ち葉、家畜の排泄物などからつくられる有機堆肥は農薬や化学肥料を使用しない有機農法には欠かせません。今後も落ち葉の堆肥が作れないとなるとたいへんはことになります。今年



のカニ山の落ち葉も放射能を策定しましたが、検出されませんでした。汚染されていない落ち葉を選別することで安全な堆肥は作れるので、そのような活用ができるように行政の指導を願いたいものです。近々、行政にお願いする予定です。

左の写真は3mほども積まれた落ち葉（5年前）

1月11日（土）（11：00～12：00）の学習

内容「どんど焼き」体験 場所「田んぼ近く祇園寺前」

持ち物 箸と器（搗きたてのおもちが振る舞われます）、お正月飾り

どんど焼き(佐須地域の行事参加)

かつて、農村の集落ではどこでも行われていたと思われるお正月の行事としてどんど焼き（地域によって呼び方が異なる）があります。佐須地域でも一時途絶えていたものを地域の青年会が復活して20年をこえる事業になっています。

田んぼからのおたより2013

第17号 2014年2月9日発行

皆さんお元気ですか？ 2月の授業では、縄織い（稲わらで縄を作ること）を学習します。冬の間お米作りをやっている農家では田んぼでの作業がないかわりに家の中で行う作業がありました。その代表的なものが縄織いです。インターネットで探してみると地域特産物マイスター協議会・財団法人 日本特産農産物協会が発行する「地域特産物マイスター通信」という広報誌にこんな文章がありました。「百姓仕事にとって縄織いは基本作業だった。結ぶにも、担うにも、運ぶにも、入れるにも、敷くにも、履くにも、そして保温にも、皆、縄が不可欠だ。目的に沿った稲藁の選択、湿り具合と打ち加減、縄織いのワザとコツ、何処の軒先に立っても藁を打つ槌音とショリショリと繰りかえされるリズムが聞こえた。右の掌と左の掌の巧妙なワザが繰う1本の藁縄には、時間（歴史）と空間（地域社会）が織り成す文化があった。」

2000年を超えるお米作りの伝統のなかに、農作業や普段の生活に欠かせない様々なものを提供したのが稲藁で作る縄であったり、草履であったり、米俵などでありました。お米作りを学んでいて一番驚いたことは、収穫されたお米だけでなく、籾殻、米ぬか、稲藁などその課程で生まれる副産物が一つも無駄になっていないことです。ここではいちいち書きませんが、ぜひ皆さんインターネットなどで探してどんなものがあるか調べてみてください。調べたら、是非皆さんに教えてください。

2月9日（日）（10：00～12：00）の学習

内容「縄織い」 場所：佐須児童館集会室

室内なので雨でもやります。藁草履作りに挑戦します。

午後も授業がありますので、お弁当をお持ちください。

2月9日（日）（13：00～15：00）の学習

内容「堆肥天地返し」 場所：堆肥堆積所

履物は長靴をお勧めします。

雨の場合中止。

縄織い

稲刈りをし、脱穀した稲藁は、実は大変な貴重品になっています。皆さんは実際に稲刈りをしているのですが、その大変さがわかると思います。農家がつけている田んぼの広さは、私たちの田んぼ（3畝）の最低でも10倍から大きいところはおそらく数百倍で、とても手では刈り取りできる広さではありません。コンバインという機械で刈り取りしますが、稲藁がそのままではかさばるため、同時に粉々にしてしまいます。だから、稲藁もありません。そのため、稲藁は大変貴重なものになっています。

さて、縄織いですが、いわゆる手仕事です。上手に、早く縄を作ることはなかなか大変です。

でも、自分で作ることに大きな意味があります。そんなことが体験できればいいなと思います。
みなさん、お楽しみに。



東日本大震災が発生して、あっという間に三年が経過しました。前回の総選挙、参議院選挙で圧勝した自民党政権は、経済優先を御旗に原発再稼働に向け、着々と準備を進めています。都知事選では小泉元首相が原発ゼロを訴えて細川氏を応援していましたが、票が割れたこともあり、実現しませんでした。細川氏は演説の中で「自然エネルギーとか、脱成長とか、そうした心豊かな生き方というもので満足できるような、そうした国づくりというものを進めていかなければならないのではないか」と述べていました。自然エネルギーはよく言われますが、「脱成長」はなかなか難しい課題です。それにしても3.11大震災の直後に発生した原発事故で、あわや関東一円が放射能に襲われるかもしれないという最悪の状況に陥ったことを忘れていいのでしょうか。生きた心地がしなかったというのはこのようなことではないでしょうか。電力会社が絶対にないと言ってきた事故が発生し、それも炉心溶融という重大事故でした。後からわかってきたことは、最悪の状態にもかかわらず、紙一重で救われていたことでした。まさに、神様はいたということでしょうか。事故が収束したと政府は言っていますが、使用済み燃料の冷却は絶対安全ではありません。同じような地震が発生したとすると今度こそ、日本が壊滅するほどの事態になることを自覚しなければなりません。

あらためて思うことは、地球にとって太陽が太古のころから人間のみならずすべての生き物の“元”になっているということです。日本には四季があり、それぞれの地域で太陽の恵みを最大限に利用して作物をつくり、営々と日々を紡いできたことを再認識するこの一年ではなかったでしょうか。

地球規模で起こっているさまざまな環境問題を解決するためには、グローバルな視点とローカルな視点での取り組みが必要です。「田んぼの学校」では、そのローカルな取り組みとして身近な環境である「田んぼ」のある環境を守ることを重要な目的にしています。

「田んぼ」には環境問題を解決するヒントがたくさんあります。「田んぼ」の米づくりをおしてそのいくつかでも気がついていただければと考えています。みなさん、この一年でいくつくらい気がついていきますか？

宿題

今回の学習には、宿題があります。忘れずに持ってきてください。

宿題は、この12ヶ月間に田んぼで学んだことの感想文（長さは自由です。）です。この一年、参加した授業をもう一度、家族で振り返ってみてください。おとうさんも、おかあさんも、こどもたちもみんな書いてください。（書けない子どもは、おとうさん、おかあさんが代筆してください。）卒業式に読み上げていただきます。

卒業式欠席の場合も3月7日までに宿題は提出（FAX、メールなど）してください。

出欠席の確認

卒業式の出欠席を3月5日(水)までに尾辻までFAXして下さい。

3月9日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「縄蒷い」 場所「佐須ふれあいの家」(佐須児童館)

3月9日(日)(12:30~16:00)の学習

内容「卒業式」 場所「佐須ふれあいの家」(佐須児童館)

持ち物 お昼のおかず(参加される家族の人数分より少し多めにお持ちください。)

飲み物(御茶など) 取り皿(一人2枚)、はし、カップ

(田んぼで取れたお米でお赤飯、おにぎりを用意します。ジュースなども事務局で用意します。)

以下に記入してFAX(042-487-4385)するかメールしてください。3月5日まで必着。

(修了証を発行するため、「田んぼの学校」に参加した全員の名前を正確に記入してください)

2014年 月 日

「田んぼの学校」宛

田んぼの学校」に参加した生徒の氏名記入欄	卒業式出席(○)

5. 参加者名簿

参加者名簿

	講座	氏名	自宅市町村
1	基礎	鬼弦 千枝子	調布市飛田給
2	基礎	林 保	調布市調布ヶ丘
3	基礎	村山 昇	調布市染地
4	基礎	今江 知延	狛江市東和泉
1	親子	内田 君子	調布市調布ヶ丘
2	親子	窪田 知一郎	調布市国領町
3	親子	河野 志保	調布市下石原
4	親子	高橋 均	調布市佐須町
5	親子	田原 晋介	調布市国領町
6	親子	富樫 豊	調布市布田
7	親子	時安 裕	調布市国領町
8	親子	西山 光明	狛江市西野川
9	親子	沼田 貴明	調布市多摩川
10	親子	平井 康大	調布市佐須町
11	親子	藤井 一輝	調布市深大寺東町
12	親子	増川 和美	狛江市和泉本町
13	親子	山岸 暁子	調布市深大寺東町
14	親子	吉見 範幸	調布市深大寺元町
15	親子	越前谷 忠史	調布市入間町

6. 参加者感想文集

吉見さん

次女・吉見 奏歩 (かなほ)

おこめの「め」が出るのを見たり、たねをまいたり、おもしろかったです。
一ばん おもしろかったのは、いねかりです。
いつもは さわらせてもらえないカマで、いねを たくさん きりました。

たのしかったのは、みんなで あそんだことです。
川に入ったり、おいかけっこしたり、おかしをたべたり、たのしかったです。

長女・吉見 和花 (のどか)

学校でも、4年生は稲作について学びますが、学校とは 少しちがった勉強で とても面白かったです。

色んなことを教えてくださり、ありがとうございました。
いっしょに たくさん遊んでくれて、ありがとうございました。

母・吉見 智子 (ともこ)

水田に囲まれて育ちましたが、稲作について知らない事ばかりだなあと痛感した一年でした。

ほんの数回しか参加できませんでしたが、皆さんに優しく親切に接していただき、とても楽しい時間を過ごせました。

ありがとうございます。

家庭の事情で来年度は参加できませんが、機会があればまた「野川で遊ぶまちづくりの会」の活動に参加させて頂ければ幸いです。

一年間、ありがとうございました。

父・吉見 範幸 (のりゆき)

私は都会育ちのため稲作の知識が全くなく、楽しみにして申し込みをしました。
しかし腰痛が悪化し、何も体験できないまま終わってしまいました。

毎回「おたより」を見ては、来年こそは！と思っていたのですが、親の介護が始まり、諦めざるを得なくなってしまいました。
残念です。

またチャンスがありましたら、宜しくお願い致します。
一年間、ありがとうございました。

田んぼの学校を振り返って

2014年3月7日 窪田陽子

私は静岡で大きな田んぼに囲まれた家で生まれ、育ちました。暑い夏は、水をはった田んぼに囲まれ涼しい風に恵まれ、冬は刈り取った藁で友達と遊ぶ日々。サラリーマン家庭でしたので、田んぼの作業は傍目で見ただけでしたが、関東に引っ越す小3まで田んぼを身近に感じながら過ごしました。

それから20年を経て、久しぶりの田んぼ。まずはなつかしきでいっぱいでした。6歳の息子の啓士は大きなお兄ちゃん、お姉ちゃん、小さな子供たちと、様々な年齢の子と一緒に走り回り、昔の自分を見ているようでした。自然の中で小さな生き物に驚いたり、用水路を夢中になって歩いたり、田んぼの中を友達と追いかけてこしたり。1歳の光莉は農作業の横で、大の字になってぐっすり眠ったり。

そして何ととっても、作業している大人のかっこいいこと。みな黙々と協力しあって田んぼを作り上げていく姿。力仕事する人あり、皆に上手に指示する人あり、細かいところに気づいて皆をサポートする人ありと、「働く大人」の輝きを見せていただきました。お金を出せば生活に必要なものが手に入る現代で、時には思うとおりに行かない自然相手に汗を流して働くこと、そしてその姿は大切な記憶として子供たちにも刻まれているとおもいます。

今年度は小さい子供がいたり体調がすぐれなかったりとなかなか自分自身が農作業に関われなかった、貢献できなかったのが残念であり申し訳なかったのですが、皆さまがいつもあたたかく迎え入れてくださったことに感謝しています。

このような素晴らしい学校を運営されている尾辻様、奥様、事務局の皆さま、本当にありがとうございました。

2014年3月5日

「田んぼの学校」に参加して

佐須町4丁目 高橋 均

家情で修了式に参加できずに残念です。また来年度も今回参加できなかった作業をすることを目的にして、参加いたします。一緒に参加したお仲間のみなさんの顔が拝見できないのが残念です。

以下この一年参加して感じたことを箇条書きにいたしました。

- ・息子たちは「生き物見つけ」に奔走するが、少年時代にこういう環境で遊んでいたことはよき思い出とともに、次世代に何かを残す事でしょう。人工物の中であれもだめこれもだめと言われて育つよりも用水路をせき止めているほうがよっぽど楽しそう。こどもたちの目に輝きを感じた。
- ・自分自身も田んぼで一日過ごすことに楽しみを覚えました。幼いころ、かえる取りに夢中だった事を思い出したり、田んぼから柏野小方向の風景の四季を楽しんだりです。
- ・作業に来て、何もしていないでいると「自分も何かやろう」という気持ちがわいてきます。
- ・田んぼの代かき、田植えと作業をしていくと自分もモチベーションがあがってくる。秋の台風の際は稲は大丈夫だろうか何回か見にいったりもしてしまった。
- ・今の時代、「火あそび」なんかできないが、ここはできる。収穫祭で息子たちが火の番をしたり、竹を割ったり、目が輝いていた。
- ・やっぱりここに集まってくる人々との出会いはとても楽しさを感じます。知らない人と一緒に汗を流すと親近感もわいてきます。この調布周辺で、息子たちの保育園、学校の関係の他にこのようなつながりがもてるところもありがたいところです。
- ・NHKの番組で調布を特集していたとき、エンディングの画像がものすごい田んぼや畑のいなか道の空撮。「調布のどこだ？」と話していたが、ハタと気づけば圭樹、泰樹の通学路。すなわち田んぼの横のみち。とてもうれしくなってしまう。大都会新宿から特急で15分ちょっとのところとは思えない。牛舎もあるし、蛍も飛ぶし、かぶとむしもいるし。ここに住んでよかったと思っているところです。

また4月からよろしく願いいたします。

「田んぼに参加して」

高橋由紀子

結婚した当初、柏野小学校のすぐ近くに住んでいました。畑やかに山、野川の自然に囲まれたこの地域が好きで、転勤からもどってきたら、またここに住みたいと思っていました。念願が叶い、息子たちは学校前の畑を通過して登校する日々。その中で、かかしが立ち並ぶ田んぼずっと気になっていました。

田植えや稲刈りには参加したことはあっても、それは単発のイベント。年間を通じて田んぼにかかわれること、そしてそれが地元であるというのはとても魅力的で、今年参加できたことはとても嬉しく思います。

田植えの前に、あぜづくりやしろかきなどの作業が必要なこと。稲が育っていく中でも、雨が少なければ水路を開いて水をいれたり、反対に大雨が降れば水路を閉めたりすること。単発参加では意識することのなかった作業でした。またお米に限らず、作物はお日様と雨という自然の恵によって成り立っているのを改めて感じました。

こどもたちは、毎日、田んぼの横に登下校しながら稲の成長を感じ、報告をしてくれました。また長男は「お米を収穫して終わり」ではなく、脱穀した藁からリースやわらじもつくれ、稲全部が生活の一部になっているということ知ったようです。文章を書くのが苦手な息子たちは、田んぼのつながりマップを描きました。田んぼの作業が中心ではなく、田んぼをとりまく生き物たちが多く描かれているのが、息子達らしく、笑っていましたが…。でも生き物も田んぼには大切な存在だと気づいてくれれば良いと思っています。

参加をさせていただき、本当にありがとうございました。
来年もまた参加をしたいと思っていますので、よろしくおねがいします。

みんなと一緒に田植えや稲刈りができて楽しかった。 高橋 泰樹

稲は終わってもリースやわらじをにも使えるのだとわかった。高橋 圭樹

村山 昇

2014年3月3日

「田んぼの学校」卒業作文

わたしは「田んぼの学校」の作業を通じて、次の3つのことを感じ取れたことが自分にとって大きな収穫となりました。

- 1)季節の移り変わり
- 2)古人には無駄を出さない生活の知恵があったこと
- 3)現代農業の問題点

昨年ほど季節の移り変わりははっきりと感じた年はありませんでした。そして天候のことをこれほど気にかけた年也没有ありません。

それもこれも、田んぼの米の生育のことが頭にあるからです。稲の生育とともに季節が進行することに喜びもありました。

また、刈り取った藁を肥料や縄にしたり、レンゲを植えて土壌改善したりと、古人の知恵は無駄を出さない循環型の大変すばらしいものだと思います。

田植え前の雑草刈りのとき、その茂り具合にとっても驚きました。わたしの家(調布市染地)の隣はたまたま田んぼなのですが、ほとんど雑草が生えていません。

おそらく除草剤をまいてあるからだと思います。

雑草刈りを手作業でやってみて、確かに除草の手間が大変なことを実感しました。

ただ、高齢化が進む農家にあつて除草剤は不可欠なものであることも理解犠牲にすることができます。

現代農業がますます経済効率性を追求せねばならないなかにあつて、ものもまた大きくなっていくのでしょうか。そうした経済効率化によって安く農作物が買えることをよしとするのか、それとも多少割高でも安全な農作物を買うようにするのか、ここは難しい問題だと再認識しました。

いずれにしても、自然を相手に米を作り、米を食するということは、生命と向き合うことなんだなと感じました。毎食の「いただきます」に感謝を込めて、これから生活していきたいと思います。

最後に、会を運営された尾辻さんご夫婦、関係者の方々に御礼申し上げます。この1年間ありがとうございました。

時安 裕
時安 夏妃
時安 風生

---感想文---

今年2年目のたんぼの学校でした。

田植えと収穫はなんとか出席できましたがそれ以外は予定があわずに欠席がちだったのが残念でなりません。

ことしもたんぼおよび周辺の用水路での子供（幼稚園児二人）の自然とのふれあいができ私も子供も大変楽しい時間をすごすことが出来ました。

泥をすくったり、用水路で水浸しになってエビやおたまじゃくしを捕まえるのはとてもよい経験になったと思います。

春に植えた稲が秋にはあんなに大きくなる生命の不思議は大人の私が驚いています。

子供たちはどう感じたのかはわかりませんが、触れ合っただけで体感したことに意味があったと思います。

落ち葉で堆肥を作ったり、刈った稲でしめなわを作ったり、自然のもので何年も何年も継続できる仕組みが日本のながい歴史のなかで営まれてきたことに、先人の知恵、自然の偉大さにただただ感心するばかりです。

本で読んだだけではわからないし、イベントで田植えと稲刈りだけをするのでもわからないことがたくさんありました。あぜの作り方、どろの抜いかた、用水路とたんぼの関係、そこにすむ生物達。

来年は調布から引越しをする予定のためたんぼの学校を継続参加することが難しく、とても残念です。

子供たちにはせめて田植えと稲刈りの経験はさせてあげたいので引越し先でまた探そうと思っています。

尾辻さん、貴重な体験をさせていただける素晴らしい学校を提供して頂き本当にありがとうございます。

多くの人が、とくに子供がこのたんぼの学校に参加すると日本ももっとよくなると思います。

2013年度 田んぼの学校 感想文

今回初めて、田んぼの学校に参加をさせていただきました。
週末は別の予定が入ることも多く、なかなか参加できませんでしたが、作業的にもほとんど役には立たなかったと思いますが、そんな中でも、様々な体験をさせていただきました。

個人的に特に印象に残っているのは、田植えをする前に裸足で入った土の感覚です。ひんやり・クリーミーでとても気持ちよかったです。子供たちが腰までつかって泥んこになって遊んでいるのも、普段の泥遊びとはまた違ってとても楽しそうで、貴重な経験だったように思います。あの感覚は是非また味わいたいです。

場所も近くでしたので、幼稚園の帰りや、主人の実家の行き帰りなどの際に寄っては、田んぼが今どのようなになっているかを見る楽しみもできました。夏の夕方に行くと、蛙が大合唱していて、本当にここが東京???と驚きましたし、作った案山子が雨に打たれて倒れていないか心配で、見に行ったこともあります。

そして、収穫できた大事なお米はおにぎりにして、ピクニックに持っていくなどしました。

お陰さまで、大人と子どもが一緒に楽しめる場所・話題が沢山できたように思います。

このような機会を作ってくださった、尾辻さん夫妻をはじめ、関係者の方々に心より感謝いたします。1年間、本当にありがとうございました。

田澤 真帆

2013年度 田んぼの学校 感想文

私は出身が調布なので、小学校の頃よく佐須の用水路や、カニ山で遊んだものでした。私にとっていろいろ思い出のある場所で、大人になってまた子供の時と同じようなことを、自分の子供と一緒にできたことは、大変貴重な経験でした。

子供が生まれてからは、なるべく自然に接する機会を作るようにしていましたが、田んぼの学校がなければ、自分の馴染みのある場所で子供の時以上にべったりと自然に触れ合っ、自分の子供たちと一緒に遊ぶということはなかったと思います。

1年を通して参加できない日も多くありましたが、毎回同じ田んぼで活動していたため、四季の変化を感じながら子供とともに楽しむことができました。今年も参加させていただき、今年は子供と遊んでいるだけでなく、もう少しコメ作りも学んでいきたいと思います。1年間貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

田澤 宏和

デイキャンプが"たのしかったです。おともたちといちよのほぼで"ふ、あーつとあそんた"ことが"たのしかったです。

た"じてるさ (5才)

おにぎりが"おいしかった

た"ねまじか (3才)

田んぼの学校 -感想文-

窪田知一郎

足裏がヌルっとズボっとして安定せず、気を抜くと尻餅をついてしまいそうな妙な緊張感。「そこの列真っ直ぐにね！ちょっと曲がってきてるな」という尾辻さんの声。見上げると晴れ渡った青い空。翌日の腰痛に、2週間近く黒い汚れが取れない爪。

足の感触はどこか懐かしい感じで、子供のころにやって以来のような、いやもしかしたら初めてののような、その記憶さえもあいまいな中の田植え体験でした。

せっかく連れて行った5歳の長男は、隣の列を担当していたものの、10分もしないうちに飽きてしまい、「ボクはもういいや、パパがんばってね」の声を残して離脱していきました。結局、せっせとひたすら2列分の稲を植えるはめになりましたが、まっすぐ等間隔というのは意外に難しいものでした。時々、子供のころ連れて行ってもらった祖母の実家（農家で回りにたくさん田んぼがありました）を思い出しながら、ひたすら植え続けました。

出来栄は周りの経験者の方とは比べものにはなりません、最初にもち米、次にうるち米と植えきったあとの爽快感は、文字通り爽やかで心地よいものでした。終わったあとのビールも最高でした。

1年間、参加できた回は必ずしも多くはなく、稲刈りも風邪をこじらせて欠席になってしまいました。そういう意味では、一通りを経験したとは到底言えません。ただ、田んぼの学校は、1つ1つのイベントを経験することに加えて、「まだまだ自然が残っている調布」ひいては「豊かな自然と共存してきた日本という国」を見つめなおすきっかけにもなったと思います。

参加者の皆さん、尾辻さん、1年間ありがとうございました。

田んぼの学校で楽しかったこと

26年3月9日 藤井悠奈（はるな）

私が田んぼの学校で楽しかったことの、一つ目はカニ山でキャンプをしたことです。火は去年もなかなか起こせなかったけど、去年よりは少し早く起こすことが出来て、うれしかったです。

一番楽しかったことは、田んぼの学校の男の子と一緒に枯葉（かれは）を集めたことです。

二つ目は、いところを呼んで収穫祭をしたことです。おもちつきの杵（きね）はとっても重（おも）かったけれど、おもちが食べれると思ったらとてもうれしかったです。

三つ目は、稲刈り（いねかり）です。一年ぶりだったから、こつをつかむのが時間がかかったけれど、慣（な）れてくると上手に切ることも出来たし、大人（おとな）たちの役に立っているなと思いました。楽しかったです。

「田んぼの学校」に学んで3年目になりました。参加出来ない時もありましたが、一年を通じて、家族みんなで楽しみながら学ぶことが出来たと思っています。

4月の用水路清掃、生き物観察は、子どもたちは時々見つかる生き物に夢中になりながら、ごみも集めて、水の大切さ、ホトケドジョウ等が住むことの出来る環境について考えていたようです。絶滅危惧種という言葉も説明して、子どもなりに考えていたようでした。

田植えは田んぼでの春の一大イベントかと思います。しかし、子どもにとってはずまらない単純作業なのではないでしょうか。すぐに飽きてしまうようです。泥遊びも好きな子どもと苦手な子どもがいるようです。

秋の稲刈りは、お米が取れた！と実感できる楽しい行事でした。娘も3年目になりますが、一度につかめる稲の束の量が増えてきたようです。大人が結わえる役になると、どんどん子どもたちが刈ってくれました。収穫はやはり楽しいものですね。後のビールもおいしかったです。

12月の炭焼きキャンプは子どもにとっても貴重な機会だったようです。火おこしに苦労して、どんな物が燃えやすいのか？どうすれば燃えるのか？自分で考えたり、尾辻さんに聞いたりして試行錯誤していました。その後、学校でクラブ活動の選択があり、娘が同じような野外活動を希望したと聞いて、田んぼの学校での体験がきっかけになったのかなとうれしく思いました。

毎日食べているお米という身近な食べ物を通して、土や水や生き物といった自然、環境、地域の結びつきの問題を体験しながら考えさせてくれる、今年も充実した一年間だったと思います。案山子作りなど出席出来ない時もありましたが、来年度も家族で参加したいと思っています。よろしく願い致します。

2013年度の田んぼの学校の感想

2014. 3. 9

藤井 紀子

今年で、3年間の田んぼの学校を無事終わることができました。

昨年に続き、全ての行事に参加することはできませんでしたが、しろかき、田植え、稲刈り、夏祭り、収穫祭、デイキャンプなど参加することができました。

今年は、娘も稲刈りはずっと稲を刈ることができ、昨年度はすぐに飽きてしまっていたことを思へば、一緒に行くことの楽しさ、苦勞を体験することができました。

夏祭りでは、昨年度は、焼き鳥の宣伝に一生けん命でしたが、今年は、お金の受け渡しのお手伝いできていました。デイキャンプでは、火おこしを前より早くつけることができたと話していました。

毎年同じ工程を繰り返しつつも、年を追うごとに、娘が着実に田んぼ作りに参加し、体験していく様子を見ることができ、また一緒に体験できるこの時間が有難く貴重な物だと感謝しています。

夫も話していますが、娘は4年生からの学校のクラブに自然ふれあいクラブに入りたいと話していました。田んぼの学校での経験が、本人の中で楽しい実体験となり、自分からやりたいと話していることが、自然への思いが、種から少しずつ芽が出来、成長しているようで、とても嬉しかったです。

また、娘曰く、女の子は虫が嫌いな子が多いけれど、私は大丈夫と話していました。

2年前の堆肥返しでカブト虫の幼虫を宝物のように探していたことなど、自然と触れる中で、好きになっていったと思います。

私自身も、気忙しくしていると土に触れる機会が少ない日常の中で、田んぼの学校で土に触れることで、癒しを感じ、土のエネルギーの大きさと太陽の有難さ、雨の尊さを実感しています。

この安全な土、お米を子ども達に残している田んぼの学校に、家族で参加することができ、尾辻ご夫妻始め皆さんと一緒に活動することができ、感謝しています。

田んぼの学校感想文

内田 君子

今年度の田んぼの学校は4年目の参加でした。

子ども達が徐々に成長し、それぞれの用事が増え、あまり参加できなかったことが残念でなりません。

長男は中1となり、部活中心の生活になりました。部活が午前で終わるときには田んぼにかけつけ、作業をしながら小さな子ども達の面倒をみていました。次男は5年生になり、学校の授業で米作りを学びました。すでに田んぼの学校で稲作を経験している次男としては、得意になって授業に参加していたようです。長女は3年生になりました。昨年までは面倒を見られる側だったのが、今年は小さな子ども達を引っ張っていく立場となりました。田んぼの作業にも慣れ、特に指示をしなくても、手順がわかってきたようです。

4年間田んぼの学校に参加して一番良かったと思ったことは、米作りを通して子ども達の成長を見られたことです。田んぼの作業一つ一つが、長男がやっていた作業を翌年は次男がやり、次男がやっていた作業を、翌年には長女がやり…といった感じでした。1年ごとに子ども達の昇格していく様子を見るのは、稲作体験をする以上に、私にとっては楽しみでもありました。

来年度は今年度以上に参加することが難しくなりそうです。

子ども達と話し合い、できればまた登録だけはしておこうかなと考えています。最後になりましたが、田んぼの学校を主催されている尾辻さんをはじめ、スタッフ、竹内さん、参加されているみなさんに感謝いたします。一年間ありがとうございました。

田んぼの学校の授業に参加して

田原 晋介 (父)

『休日は何をしているのですか?』営業の仕事をしている私にとって、よく出る会話の一つです。今年は悲しいことに田植えを欠席してしまいましたが、『米作りに参加しています!』と言っています。お陰様で大の虫嫌いだった私は、“虫が苦手”位まで克服?しています。

太陽の恵みに感謝して!太陽の恵みに乾杯!と校長が発するこの言葉が好きです。考えれば当たり前の事ですが、参加するまでは太陽に感謝したことはありませんでした。

今の暮らしは、こんな事ができたら便利だな〜と、昔思っていたことが当たり前になっている世の中です。3年前の大地震で断水もそうですが、停電が続くと我々の生活が立ち行かなくなることに気付き、電気が当たり前ではないことがわかりました。

電車に乗ると、満員でも詰めない、高齢者がいても席を譲らないという場面をよく目にします。当たり前が増えると感謝が出来なくなり、感謝が出来ないから人に優しく出来ないのではと感じます。子ども達には当たり前に感謝できる気持ちを養ってあげたいと思っています。

田原 早希子 (母)

今年度は「今まで経験したことのない」といわれる気象災害のニュースが目立ちました。これから先、夏はますます暑く、冬は大荒れ…というような天気になるのだろうか、子どもや孫の時代にはどうなってしまうのか、ニュースを見ていると心配になってしまいます。

田んぼの学校の授業を通して思うことは、自然に逆らわず、朝日が昇ったら活動をし、日が沈んだら寝るといような生活をしていれば、環境問題やその他の問題は起こらなっただのではないかという事です。今からその生活に戻るといことは現実的に難しい話ですが、子ども達にとっては、自然に逆らわない生活が一番よいのだと思います。

毎日時間に追われ、食洗器・衣類乾燥機などの電化製品を頼ってしまいがちですが、もう一度生活を見直したいと思います。まず出来ることから始め、そして、これからは調布の自然を守る取り組みにも積極的に参加していきたいです。

田原 大悟 (6才)

今年は初めて泥に入って田植えをしました。泥の中に入ってみたら気持ちがよかったです。あと、カニ山のキャンプが楽しかったです。

河野

田んぼ

そうじ

自分で作ったお米がお餅になるお餅つきが楽しくて、すごい美味しかった。

ゆうすけ

普段口に入っているお米を一から作る事で、昔から行われている伝統とご飯の大切さを学びました。

これから食事する時の意識も変わって素晴らしい経験が出来たと感じています。

しほ

昨年11月23日は息子4度目の誕生日でした。勤労感謝の日だな。新嘗祭という祭事の日で何となくおめでたい日だな。と思っていましたが、昨日の誕生日は改めてその大切を知り日になりました。春の苗床づくりから田植え、稲刈りを経て今年もその恵みを受けることに感謝する日に息子は生まれてきたのだと実感できる機会を得ることができ、この会に参加して本当に良かったと思います。そして収穫祭は来年の収穫のためのスタートでもあり、途切れることなく毎年毎年続いていることを忘れずに生活とし、息子にもそれを感じてほしいと思います。

引越が長引き、なかなか参加することができませんでしたが、自分の生まれ育った調布で生まれてはいじめて米づくりをすることができ嬉しかったです。ありがとうございました。

ぼくは、これまで何回もたんぼの学校をや
つてきました。
今ぼくは 五年生です。五年生の学習では
米作り体験というものをやります。「こゝろ学
んだこと」は、学校での米作りでもしても役に
立ちました。また、学習の中でも、一年間を
とおして、米作りを、や、た、け、い、け、ん、が、あ
たのはぼくだけでした。体験したことは田植
えとい、扱、か、り、で、し、た、け、ど、その時、も、こゝろ、で、教
え、て、ま、ら、た、こ、と、は、し、て、も、や、く、に、た、ち、ま、し、た
しくは4年間、田んぼをやつていてよかったです
思、て、い、ま、す。六年生、中学生にかゝるも
て、ま、る、か、ま、い、の、たん、ぼ、の、学、校、を、つ、づ、け、て、い
きた、い、ま、す。

増川 邦弘

2014年3月9日

何れも長い歴史のゆえに日本人が培ってきた米づくりとその仕事に少しだけ
でも携わることができたことは、私にとりとても貴重な経験に感じました。

私の実家は徳島県吉野川の下流域にある兼業農家で私も農家のせがま
でござい。子供のときに言わゆるおまはりに手伝ってまいりましたが、その内容を理解すること
もありませんでした。

この田んぼの学校で、子供時代を振り返りながら作業ができたことはとてもうれ
しかったです。

また、黒川町と今この農家で行われる作業は正直衝撃的でした。他の
ところの作業にはない。それは何のゆえにやらせてくれたのか、改めて「学ぶ」という
機会を得られたことは非常に良かったです。

農地をどうやって管理するかについてもいろいろ学びました。

やったこと

- ・用水路のせがま
- ・草刈、耕す
- ・植物観察
- ・代かき 苗床作り、発芽
- ・土作り、黒川
- ・田植
 > (草取り) 夏まき
 > (稲刈り)
- ・稲刈
- ・はしかり
- ・脱穀、おこし、精米

もぐり

(しり縄刈)、おこし

縄縛

初めての米作り。

1年を通じたの田んぼでの作業はどれも おもしろく、

皆で協力し一斉に田植えや 達成感たっぷりの
稲刈りなど 楽しく作業できました。

尾辻さんのお話で一番印象に残ったのは、

田植えが終わった時に「人間ができるのは、こまごまです。」
という言葉です。

人間のカで米を作るのではなく、おひさまと土と雨が米を育て
くれるのだと改めて気付かせてくれた言葉でした。

日照や雨は人のカでは、どうすることもできませんが、きれいな水を
田んぼに入れる為に用水路の掃除をしたり、良い土を作る為に
レンガ草をすきこぼすなど、お年寄りや人がいるんだなと思いました。

火田仕事をしている

義母が「土はえらいよ。土は何でも作ってくれる」と言っていたのを
あわせて思い出しました。

自分でやってみないとわからないこと。

おそばの学びのチャンスを与えてもらってありがとうございます。

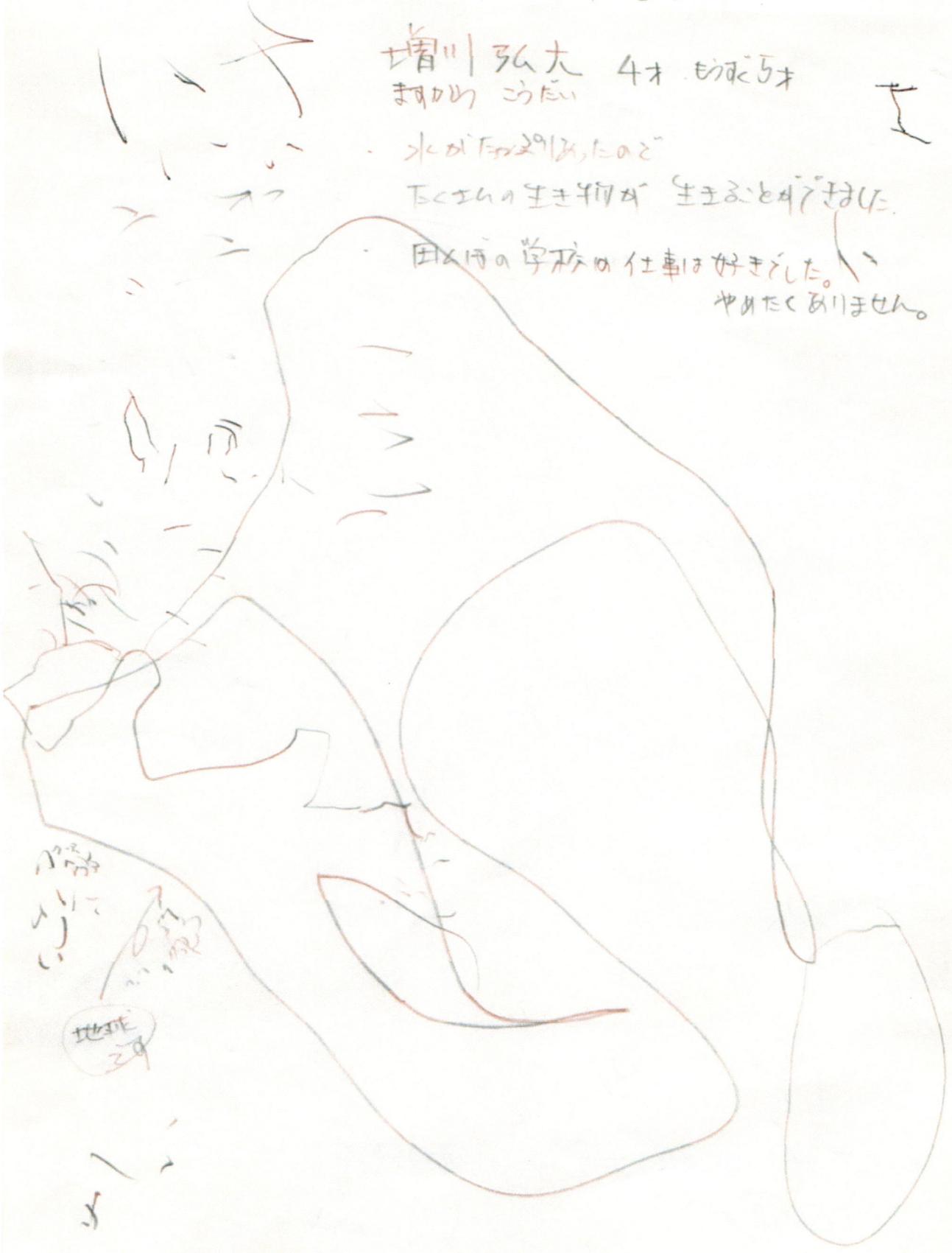
尾辻さん、生徒のみなさん、ありがとうございます。

田んぼの学校で学んだこと

増川弘大 4才 母は5才
お母さん

水がたまり、たのび
土の中の生き物が 生きるとおぼしめた。

田んぼの学校の仕事は好きでした。
やめたくありません。



田んぼを永遠に！

西山 光明

今年で田んぼに通って四半世紀です。四半世紀も、米づくりは全然飽きません。何んか飽きないかと言ふと、米作りには毎年ドラマがあるからだと思います。テレビドラマよりも全然面白いです。四季折々の自然現象や子供の成長など、米作はどのようなものかとよく考えます。

この17年をいかに感じたり、考えたりできるのも、田んぼという環境があるからです。次世代の子供たちのためにもぜひとも調布の田んぼを残したいものです。そして、この田んぼに通ってくる子供たちが日本の将来をどうにかしてくれるんじゃないかと勝手に思っています。

ただし、子供が成長するまでの10年くらいは自分達親子も頑張らなさいといひます。去年、残念だったことは、放射能の影響で落ち葉拾い・堆肥作りができなかったこと

堆肥場

(2)

とです。カブト虫の幼虫も激減しました。夏もやたら暑しい、ゲリラ豪雨も多発します。米づくりや自分たちの生活が、政治や自然環境と無関係ではいられないところまで来てしまったのは複雑な思いです。

とはいえ、春が来て四月からは米づくりが始まります。十一月の収穫祭では、みなさんと一箱にまた、もちろまをしい乾杯をまをこを楽しくに、といひます。

来年もヨロシク願ひします。

実体験から得るもの

西山 貴代美

私は恥しながら、田んぼの学校に参加して四年目の今年初めて田植えをしました。

今まで下の子が小さく田んぼに入りたがらず、かと言、一人で入るにも目を離すのが不安だ、ためらいます。今年は下の子自身が田んぼに入ると言い、一緒に入りました。

素足に触れるどろの感触、手にする苗の量が多すぎても少なすぎてもいけないこと、教わりながら見よう見まねで植えて実際苗が立ったこと、仲間と横一列になり、同じ動作をくり返し進んでいくこと、どれも当たり前ですが見てるだけでは知り得なかつたことでした。体の疲れと反対に気持ちはずっと充実していました。

「百聞は一見にしかず」といいますが、「百見は一体験にしかず」です。これから子どもと一緒に実体験を重ねてそこから得るものを共有し成長の糧としていきたいです。

一年間ありがとうございました。

田んぼの学校での一年間をふりかえ。て

西山 優菜

わたしはこの1年間をふりかえ。て、田んぼの学校ではいろいろなことを学んだと思ひます。ほとんどが自然のこゝです。用水路や生きものを観察したりしました。でも、一番びっくりしたことはホタルです。この東京にホタルがいるなんて、とてもおどろきました。ホタルの動きなどを観察して、とても勉強になりました。

また、(田んぼの話にとぶのですか)お米ができるまでにいろいろなことをしなくちゃならないので大変でした。でも、そんな大変な思いをしたからこそ、しゅうかく^{しょうかく}緊で食べたおもちはいままでがんばってきたことがひとめられたみたいでうれしくて。とてもおいしかったです。それから、田んぼの学校はと、とても楽しくて、勉強にな。たので、来年度もがんばりたいです。

田んぼの学校で思、たてと

西山 大樹

ぼくが一番楽しかったことはもちつきです。
なぜかという、今まで死だしてきだ、木か
で主^{しゅ}供^くり、その木をつかたもちを食^くった
からです。

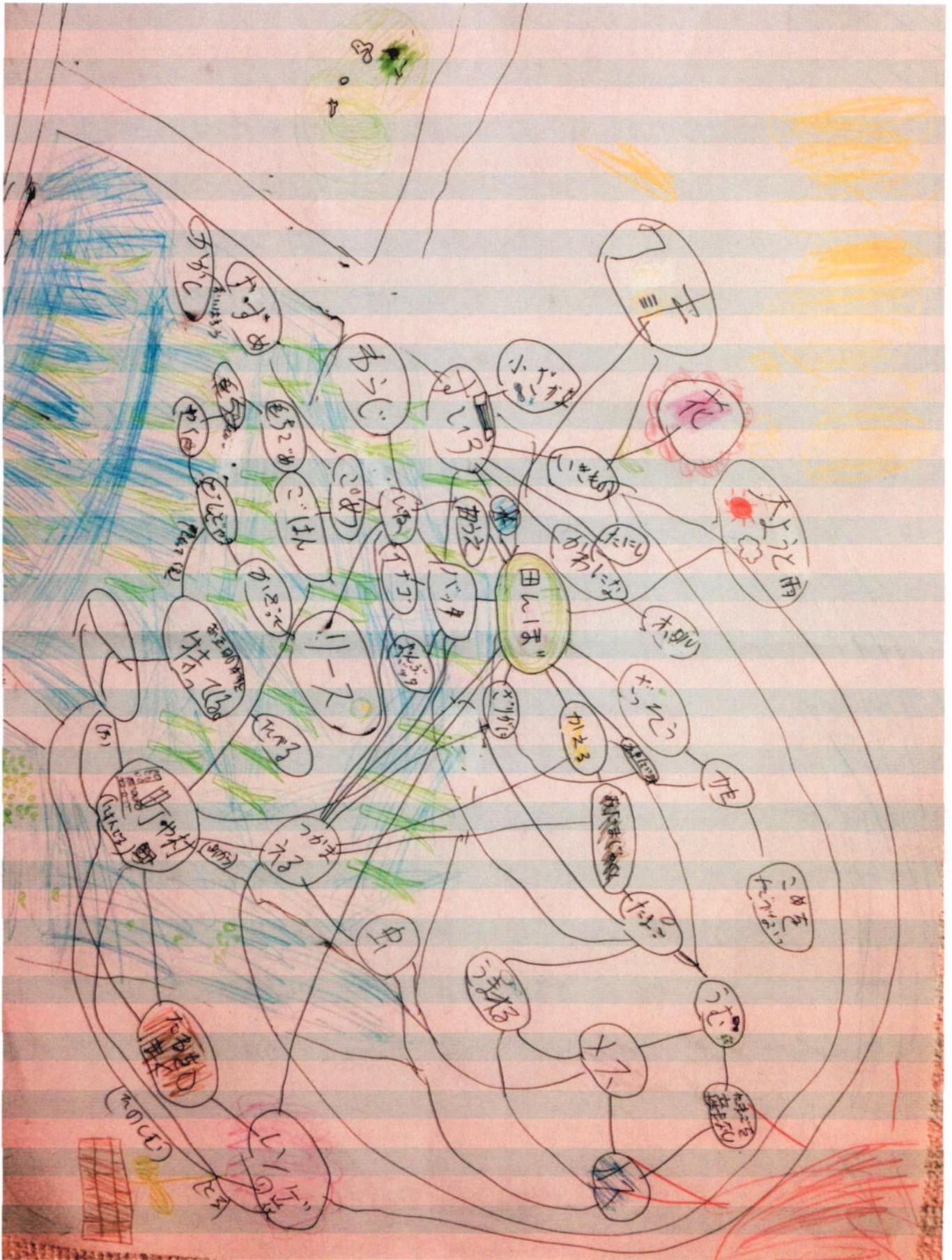
田んぼが一番大^{だい}い^いした。なぜかという
で、どろの中になんを何かか^かう^うえ^えていると
だ^だん^んだ^だん^んは^は足^{あし}が^がつか^{つか}れ^れて^てしま^まう^うので、大^{だい}い^い
した。ら^らい^いね^ねん^んは、か^かん^んば^ばり^りま^ます。

ぶちまけのしかなかったですぶちまけのし
かたです

ぶちまけのしかなかったですいろいろた
かたです

いかにいたかたのしかなかったいろいろた
かたです

西山こゝち



生き甲斐の発見^のが
返^りってきたので、またおたまり^ので
ね、エビ^をとりたい。
火^を売き^かかんも^も美味^いしかった。
また来年も返^りってきた
の^をと、また日本^へ戻^りて
いな^な田^ん植^えに^は加^わら^ない
であ^らう。えんげん^の抄^りと

子どもが おたまり^のでも、
の^を売^きかん^を見^たことがない。
というので、入^り学^して^いた。
夏^のの^の年^だに^いた^が、
田^んの^の自^然と、恵^みを
た^らふ^りの^の味^あら^うこと^が出^来て
返^りってきたであ^らう。
ね

達成^前の^の木^ま子^こ

平井 あきひろ

楽しかった。草刈りとか田植えが楽しかったです。
しょうすけくんたちと遊んだのが楽しかったです。
稲刈りも楽しかった。デイキャンプも楽しかった。
~~平井~~ 田んぼって楽しいです。

平井 祐紀

自然の中で

毎回、田んぼのお友だちに会えること、子どもたらのいきいきした様子が見られることが、何よりの楽しみでした。毎日お米を糧として生きる私たちですから、そのお米が育っていく過程にたずさわれることは、とても自然な暮らしをさせていただいているように思いました。また来年度も続けていきたいです。
~~平井 詩菜~~ す。のんびりした歩みですが、田んぼにまつわる体験を深めて、先輩方に近づいていけたらなあと思っています。ありがとうございました。またよろしくお願いいいたします!

とても貴重な機会を

平井 詩菜

~~草刈り~~が米を刈ったり草をかんさつしたりして、いろいろおぼえることが楽しかったです。どろどろの土に入ったり水をやるのも他では出来ない事だと思います。たくさんのおいしんができてよかったです。モズなどの鳥がいたり、オタマジャクシやエビ、魚がいて、ヤカモヤワシの田んぼにいるといろいろな生き物にあえることがうれしいです。



7. 総括報告

「野川で遊ぶまちづくりの会」

代表 尾辻義和

「田んぼの学校」という形で再スタートした、「野川で遊ぶまちづくりの会」の「米つくり」も第13期を終えることになりました。今年度の参加者は基礎講座4組、親子講座15組、総勢50名以上となりました。今年度も、東日本大震災と、その地震と津波による福島第1原子力発電所の重大事故の発生で、放射能汚染が拡大したため、落ち葉を活用した堆肥が作成できない状態が続いています。

田んぼの作業は毎年同じ作業の繰り返しですが、同じようにできる事は減多になく、目が離せません。幸い生育は順調で、玄米にして120Kgほどを収穫しました。

今年度も、参加して頂いた方々には感想を書いて頂きましたが、「田んぼの学校」の趣旨がきちんと伝わっている事にたいへん嬉しく思っています。ほとんどの皆さんが継続して田んぼをやりたいと言っておられ、かといって、新しく応募される方にも加わっていただきたいとも思っているので、耕作面積は何とか増やしたいと今後も行政など関係する方々をお願いする次第です。多くの市民が集まって行うため、以下のような問題も放置できなくなりつつある状況にありますので、行政に少しでもご配慮いただければ幸いです。

- (1) 手洗いやトイレ（現在は、竹内さんの設備を使用させていただいている）
- (2) 休憩場所（竹内さんの敷地や道路を使用している。特に道路は子どもたちが遊んだりするため、通行する車に迷惑を掛けている）
- (3) 道具類の置き場所（現在は、竹内さんの納屋などを使用させていただいている）
- (4) 農器具が老朽化（耕運機、耒摺り機）しているため、壊れるおそれがあるが、代替の機械がない。
- (5) 水田を維持したり、ホタル生育の環境を維持するために、環境用水としての井戸を掘り、水量の維持を図る。

他にもスタッフ不足など問題はありますが、地域の方々の助けを借りたり、ちょうふ環境市民会議のサポートをいただくなど、少しずつ前進していきたいと考えております。皆様のご指導、ご協力をお願いして、総括とさせていただきます。

以上

8. 付録

田んぼの学校 春の植物調査

田んぼの学校 用水清掃活動時動物確認種報告

たんぼの学校 春の植物調査

2013. 4. 1. 石森佳子

スズメノテッポウ（イネ科）たんぼ内に多数



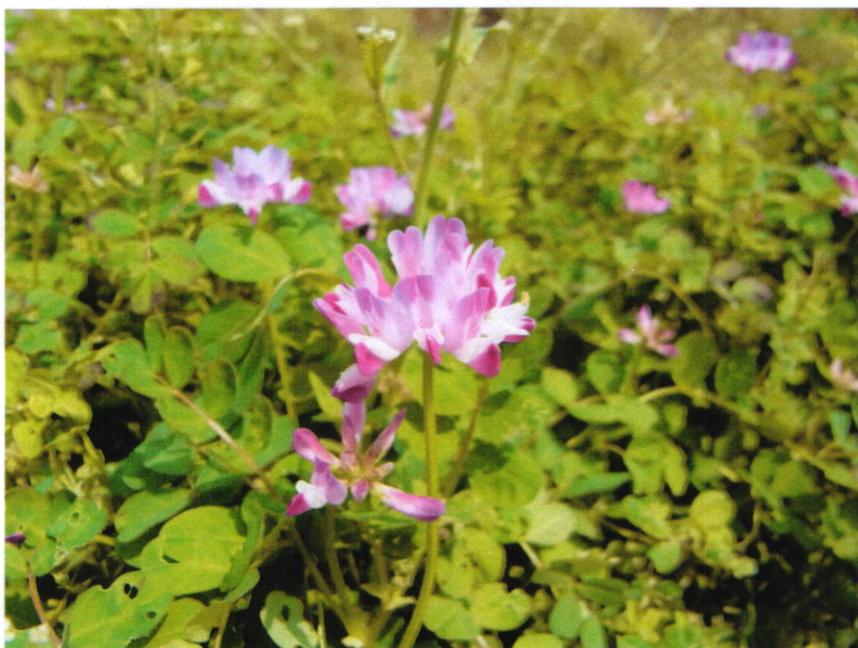
スズメノカタビラ（イネ科）たんぼ内に多数



ナズナ（アブラナ科）たんぼ内に多数



ゲンゲ（マメ科）植栽. たんぼ内に多数



コオニタビラコ (キク科) たんぼ内に多数



ムシクサ (ゴマノハグサ科) たんぼ内に多数



オランダミミナグサ (ナデシコ科) たんぼ内に少数

トキワハゼ (ゴマノハグサ科) たんぼ内に多数



ウシハコベ (ナデシコ科) あぜに少数



ヒメオドリコソウ (シソ科) あぜに少数



カントウヨメナ (キク科) あぜに多数



オオイヌノフグリ (ゴマノハグサ科) あぜに少数



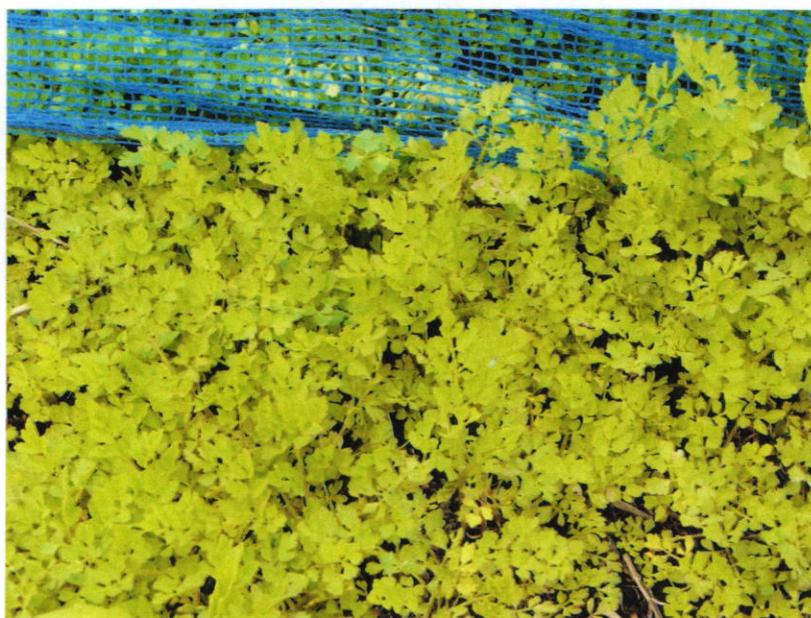
ヨモギ (キク科) あぜに多数



ヘビイチゴ (バラ科) あぜに少数



セリ (セリ科) 植栽。あぜ及びたんぼ内に多数



ホトケノザ (シソ科) あぜに少数



カタバミ (カタバミ科) あぜに数株



ノゲシ (キク科) あぜに数株



オランダガラシ (アブラナ科) たんぼの溝内に1株



菜の花（アブラナ科野菜の花）たんぼ内に1株



全体の感想

今年はコオニタビラコが増えて、ムシクサが減った。レンゲが多く咲いた。
セリが溝から広がっている。オランダガラシが初めて確認された。

田んぼの学校 用水清掃活動時動物確認種報告

石川和宏（東京都世田谷区若林5-40-7）

調査場所：佐須水田

調査日：2013年7月7日（日）

調査方法：目視観察、タモ網による任意採集

天候：晴れ

確認種一覧（青字は貴重種、赤字は移入種であることを示す）

〔節足動物門〕

1. コカゲロウ科の一種 *Baetidae* Gen. Sp. （コカゲロウ科）
2. シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum* （トンボ科）
3. ケラ *Gryllotalpa orientalis* （ケラ科）
4. シマアメンボ *Metrocoris histrio* （アメンボ科）
5. アメンボ属の一種 *Aquarius* sp. （アメンボ科）
6. ハイイロゲンゴロウ *Eretes sticticus* （ゲンゴロウ科）
7. チビゲンゴロウ *Hydroglyphus japonicus* （ゲンゴロウ科）
8. ホソバトビケラ *Molanna moesta* （ホソバトビケラ科）
9. ミナミヌマエビ *Neocaridina denticulata denticulata* （ヌマエビ科）
10. アメリカザリガニ *Procambarus clarkii* （アメリカザリガニ科）
11. カイミジンコの一種 *Podocopa* （カイミジンコ亜目）

〔軟体動物門〕

12. カワニナ *Semisulcospira libertina* （カワニナ科）
13. サカマキガイ *Physa acuta* （サカマキガイ科）

〔脊索動物門〕

14. モツゴ *Pseudorasbora parva* （コイ科）
15. ホトケドジョウ *Lefua echigonia* （ドジョウ科）

確認種（状況）による評価：

今回確認した種の多くは例年と同じく、一般的な水田環境に多く出現する種であった。但し、ホウネンエビが確認されない等、種類数は例年よりもやや少なくなっていた。この要因の一つとして、急激な水温変化による可能性が考えられた。

春季に確認されなかったホトケドジョウは稚魚が確認され、再生産が無事に行われていることを確認した。

その一方で今まで用水路では確認されていなかったモツゴが確認された。本種は本来関東地方には生息せず、用水路に繁殖できる環境がないこと、確認个体数が多く、確認された個体の体サイズも比較的大きかったことから上流側で人為的に放流された可能性が高いと推察される。

発 行

2014年3月31日

野川で遊ぶまちづくりの会

代表 尾辻 義和

〒182-0016

調布市佐須町2-22-2

電話 042-487-4385

Mail otsuji@y.email.ne.jp

URL <http://nogawa-tanbo.sakura.ne.jp/>